

平成 30 年度

(平成 30 年 4 月～令和元年 5 月)

自己点検評価書

比治山大学



HIJIYAMA

目 次

【基準 1 使命・目的等】

使命・目的及び教育目的の設定.....	1
使命・目的及び教育目的の反映.....	2

【基準 2 学生】

学生の受入れ	3
学修支援	7
キャリア支援	8
学修環境の整備	9
学生の意見・要望への対応.....	10

【基準 3 教育課程】

単位認定、卒業認定、修了認定.....	12
教育課程及び教授方法	14
学修成果の点検・評価.....	21

【基準 4 教員・職員】

教学マネジメントの機能性.....	27
教員の配置・職能開発等.....	28
職員の研修	29
研究支援	30

【基準5 経営・管理と財務】

経営の規律と誠実性.....	31
理事会の機能	31
管理運営の円滑化と相互チェック.....	32
財務基盤と収支	33
会計	33

【基準6 内部質保証】

内部質保証の組織体制.....	34
内部質保証のための自己点検・評価.....	35
内部質保証の機能性.....	36

【独自基準】

比治山大学・比治山大学短期大学部中期計画（平成28年度から平成33年度） に基づく平成30年度事業計画進捗状況.....	37
---	----

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準1. 使命・目的等

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 1-1 使命・目的及 び教育目的 の設定	<p><視点> 1-1-③個性・特色の明示</p> <p>(留意点) □使命・目的及び教育目的に 大学の個性・特色を反映し、 明示しているか。</p>	<p>・「建学の精神」及び大学の教育目的を学則等に明文化している。また、平成30年度に中期計画の見直しを行う中で、大学のビジョンを「学生が主体的・能動的に学び、学内外から卓越した教育機関として評価される高等教育拠点となる」と、よりわかりやすく変更して明示した。</p>	なし	なし	<p>・比治山大学・比治山大学短期大学部 中期計画(平成28年度から平成33年度)(運営戦略本部会議資料,平成30年11月20日)</p> <p>・ホームページ>大学案内>比治山大学のミッションとビジョン https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/20160829_vision_mission_DAIGAKU.pdf</p> <p>・比治山大学学則</p>
	<p><視点> 1-1-④変化への対応</p> <p>(留意点) □社会情勢などに対応し、必要に応じて使命・目的及び教育目的の見直しなどを行っているか。</p>	<p>・中期計画の3年目にあたり、本学の教育の質保証を再確認し、それに即してビジョンを見直すとともに、それを具現する教育・研究・基盤整備等についての個別ビジョンを簡潔に表した。</p>	なし	なし	<p>・比治山大学・比治山大学短期大学部 中期計画(平成28年度から平成33年度)(運営戦略本部会議資料,平成30年11月20日)</p> <p>・ホームページ>大学案内>比治山大学のミッションとビジョン https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/20160829_vision_mission_DAIGAKU.pdf</p>

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準1. 使命・目的等

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 1-2 使命・目的及び教育目的の反映	<p><視点> 1-2-③中長期的な計画への反映</p> <p>(留意点) □使命・目的及び教育目的を中長期的な計画に反映させているか。</p>	<p>・「建学の精神」及び大学・学部 of 教育目的に基づいて中期計画(平成28(2016)年度～平成33(2021)年度)を策定している。</p> <p>・平成30(2018)年度に、中期計画の見直し(平成31(2019)年度～平成33(2021)年度)を行った。</p> <p>・中期計画は年度ごとに事業計画で示し、事業報告書で進捗状況をまとめている。</p>	なし	なし	<p>・中期計画見直し(平成31年度から平成33年度)</p> <p>・平成30年度事業計画</p> <p>・平成29年度事業報告</p>
	<p><視点> 1-2-④三つのポリシーへの反映</p> <p>(留意点) □使命・目的及び教育目的を三つのポリシーに反映させているか。</p>	<p>【現代文化学部】</p> <p>・「建学の精神」と学部の教育目的を反映させ、平成29年4月1日から、新たな三つの方針(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)を示した。</p> <p>・社会臨床心理学科は、平成30年度から公認心理師養成に対応し、三つの方針(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)の見直しを行った。</p> <p>・社会状況の変化に伴い、平成31年度に向けディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを①汎用的能力、②専門的知識・技能、③地域・社会への寄与という3つの観点により整理し、精緻化している。</p> <p>【大学院現代文化研究科】</p> <p>・「建学の精神」と研究科の教育目的を反映させ、平成29年4月1日から、新たな三つの方針(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)を示した。</p> <p>・現代文化研究科臨床心理学専攻は、平成30年度からディプロマ・ポリシーに公認心理師に必要な能力を身に付けることを掲げ、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの見直しを行った。</p>	なし	なし	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html</p> <p>・2018学生便覧</p>
	<p><視点> 1-2-④三つのポリシーへの反映</p> <p>(留意点) □使命・目的及び教育目的を三つのポリシーに反映させているか。</p>	<p>【健康栄養学部】</p> <p>・建学の精神と学部の教育目的を反映させ、三つの方針(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)を策定している。</p> <p>・完成年度の平成30年4月から、新たな三つの方針(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)を示した。</p> <p>・IT化、グローバル化、少子高齢化などにより、産業構造の変化と雇用形態の流動化し、未来予測が困難な社会状況の変化に伴い、平成31年度に向け、社会に適應できる力を備えて、職場や社会で活躍する人材育成を実現する大学教育力の内部質的保証として、ディプロマ・ポリシーの外部指標の策定、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの相互の紐づけなど精緻化した。</p>	<p>・大学入学者選抜改革に向け、アドミッション・ポリシーの見直しが必要である。</p>	<p>・大学入学者選抜改革に向け、アドミッション・ポリシーを精緻化する。</p>	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html</p> <p>・2018学生便覧</p>

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準2. 学生

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画		
【基準項目】 2-1 学生の受入れ	<p><視点> 2-1-②アドミッション・ポリシーに沿った入学受入れの実施とその検証</p> <p>(留意点) □アドミッション・ポリシーに沿って、入学選抜などを公正かつ妥当な方法により、適切な体制のもとに運用しその検証を行っているか。</p>	<p>・各入試において適切な体制の下に実施した。 ・AO入試では、入学受入れ方針(アドミッション・ポリシー)を具現化させ受験生の適性を評価できる内容で実施した。また推薦入試では、面接試験や適性試験等を実施した。すべての入学試験について、中立・公正に実施できるよう努め、適正に評価できる合格者判定資料等を作成した。</p>	<p>・スカラシップ入試について、目的にあった判定基準が明確にされていない。 ・入試の基本事項(入学試験実施マニュアル)を含め、緊急時の迅速な対応ができるマニュアルを再整備する必要がある。 ・H30.12の課題である大学入学選抜改革に基づいた試験内容の見直しも継続課題である。</p>	<p>・スカラシップ入試の判定基準の目安を定め、合格者判定委員長へ提案する予定である。また、スカラシップの目的に沿った改善案を入試改革ワーキンググループと共に再構築するよう準備中である。 ・入試の基本事項(入学試験実施マニュアル)を基に実施したH31年度入試の反省を踏まえ、入試の基本事項の内容を再検討し改善する。 ・再整備した入試実施当日の緊急対応のマニュアルを基に、迅速な対応を図る。 ・入学選抜改革ワーキンググループを中心に、アドミッション・ポリシーに沿った各入学試験の判定方法の検証のもと、大学入学選抜改革に基づいた試験内容の見直しに次年度以降も取り組む。</p>	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018年度学生募集要項 ・入試委員会規程 ・入試委員会資料 ・入学選抜改革ワーキング要項</p>	
	<p><視点> 2-1-②アドミッション・ポリシーに沿った入学受入れの実施とその検証</p> <p>(留意点) □アドミッション・ポリシーに沿って、入学選抜などを公正かつ妥当な方法により、適切な体制のもとに運用しその検証を行っているか。</p>	<p>・現入試の入学選抜において、アドミッション・ポリシーに沿った入学受け入れとなっているか追跡調査と下記の選抜方法の妥当性の検証を行った。 ①調査書の学習成績概評とGPAの相関関係 ②入試区分による学籍異動との相関関係 ③マイストーリーの記述分量とGPAとの相関関係 ④大学生基礎レポートの結果とGPAの相関関係 ・大学訪問およびセミナー参加による情報収集を行った。 ・2021年度入学選抜に関して、「2021年度比治山大学入学選抜における基本方針について(予告)」をホームページに掲載し、本学の基本方針を外部的に向けて発信した。また2020年度は準備段階の年度であり、新入試に向けての工程表の追加・修正を行い調整をした。</p>	<p>・アドミッション・ポリシーの見直しあるいは点検と「学力の3要素」に沿った入試システムの構築が課題である。</p>	<p>・ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと関連させながらアドミッション・ポリシーの見直しあるいは点検を各学科に依頼する。また「学力の3要素」(特に主体性・協働性・多様性)をはかるためのシステム構築を行っていく。</p>	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018年度学生募集要項 ・入試委員会規程 ・入学選抜改革ワーキング要項 ・入学選抜改善 工程表 ・選抜方法の妥当性の検証資料</p>	

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準2. 学生

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	課題	行動計画	
【基準項目】 2-1 学生の受入れ	<p><視点> 2-1-③入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持</p> <p>(留意点) □教育を行う環境の確保のため、入学定員及び収容定員に沿って在籍学生を適切に確保しているか。</p>	<p>【現代文化学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代文化学部の平成31年度入学定員充足率115%、収容定員充足率106% 言語文化学科の平成31年度入学定員充足率119%、収容定員充足率108% マスコミュニケーション学科の平成31年度入学定員充足率102%、収容定員充足率89% 社会臨床心理学科の平成31年度入学定員充足率120%、収容定員充足率122% 子ども発達教育学科の平成31年度入学定員充足率116%、収容定員充足率104% <p>【大学院現代文化研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代文化研究科の平成31年度入学定員充足率36%、収容定員充足率50% 現代文化専攻の平成31年度入学定員充足率0%、収容定員充足率6% 臨床心理学専攻の平成31年度入学定員充足率100%、収容定員充足率130% 	<p>【現代文化学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成31年度入学者について、全学科において入学定員に沿って適切な学生受け入れを維持していくことが課題である。 <p>【大学院現代文化研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代文化専攻の入学者が入学定員を充足していない。 	<p>【現代文化学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 入試種別ごとの目標入学者数を定め、入学定員に沿って適切に入学者を確保することにより、収容定員の充足も維持する。 <p>【大学院現代文化研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代文化専攻については、学部学生に対する指導を見直すことにより、進学につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ>教育研究活動等の公開>情報の公開>公開する教育情報>入学者の推移 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/4nyuugakushasuu.pdf ・ホームページ>大学案内>教育研究活動等の公表>教育情報>大学(在学者数, 収容定員, 編入学定員, 編入学者数等) https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/4zaigakusuu_daigaku.pdf 	
	<p><視点> 2-1-③入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持</p> <p>(留意点) □教育を行う環境の確保のため、入学定員及び収容定員に沿って在籍学生を適切に確保しているか。</p>	<p>【健康栄養学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康栄養学部管理栄養学科の平成31年度入学定員充足率74%、収容定員充足率89%となっており、収容定員、入学定員ともに適切な確保はできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・志願者数の減少から入学定員の充足が困難な状況にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験合格率の向上をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ>教育研究活動等の公開>情報の公開>公開する教育情報>入学者数(大学, 大学院, 短期大学部) https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/4nyuugakushasuu.pdf ・ホームページ>大学案内>教育研究活動等の公表>教育情報>大学(在学者数, 収容定員, 編入学定員, 編入学者数等) https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/4zaigakusuu_daigaku.pdf 	

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準2. 学生

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	課題	行動計画	
【基準項目】 2-1 学生の受入れ	<p><視点> 2-1-③入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持</p> <p>(留意点) □教育を行う環境の確保のため、入学定員及び収容定員に沿って在籍学生を適切に確保しているか。</p>	<p>【言語文化学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語文化学科の平成31年度入学定員充足率119%、収容定員充足率108%となっており、定員以上の入学者があり、その後の学籍異動者を差し引いて、十分定員を満たしており、在籍学生を適切に確保している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学定員および収容定員を継続的に確保する。 ・3年次編入学生を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学ホームページ、オープンキャンパス、高校訪問、在学生による母校訪問、高大連携講座、高校で行われる進学説明会や模擬授業等を通じた、積極的な学科広報活動を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ>大学案内>教育研究活動等の公表>教育情報>入学者数(大学,大学院,短期大学部) https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/4nyuugakushasuu.pdf ・ホームページ>大学案内>教育研究活動等の公表>教育情報>大学(在学者数,収容定員,編入学定員,編入学者数等) https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/4zaigakusuu_daigaku.pdf 	
	<p><視点> 2-1-③入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持</p> <p>(留意点) □教育を行う環境の確保のため、入学定員及び収容定員に沿って在籍学生を適切に確保しているか。</p>	<p>【マスコミュニケーション学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスコミュニケーション学科の平成31年度入学定員充足率102%、収容定員充足率89% ・区分別でみると、推薦入試で志願者数が目標値に到達していない。また一般入試ではH30年度より志願者数が減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学定員確保を継続させる。 ・収容定員率は平成31年・30年の2年連続定員を満たしたため向上しているが、100%以上となるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3つのポリシーを踏まえ、学科の特性を活かした学修成果の情報発信の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ>大学案内>教育研究活動等の公表>教育情報>入学者数(大学,大学院,短期大学部) https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/4nyuugakushasuu.pdf ・ホームページ>大学案内>教育研究活動等の公表>教育情報>大学(在学者数,収容定員,編入学定員,編入学者数等) https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/4zaigakusuu_daigaku.pdf 	

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準2. 学生

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 2-1 学生の受入れ	<p><視点> 2-1-③入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持</p> <p>(留意点) □教育を行う環境の確保のため、入学定員及び収容定員に沿って在籍学生を適切に確保しているか。</p>	<p>【社会臨床心理学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会臨床心理学科の平成31年度入学定員充足率120%、収容定員充足率122% 	<ul style="list-style-type: none"> ・公認心理師に対応した新しいカリキュラムがまだ十分周知し切れていない可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいカリキュラムの特徴や公認心理師養成について、また卒業後の進路について、高校訪問において、より積極的に周知を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ>大学案内>教育研究活動等の公表>教育情報>入学人数(大学,大学院,短期大学部) https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/4nyuugakushasuu.pdf ・ホームページ>大学案内>教育研究活動等の公表>教育情報>大学(在学者数,収容定員,編入学定員,編入学生数等) https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/4zaigakusuu_daigaku.pdf
	<p><視点> 2-1-③入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持</p> <p>(留意点) □教育を行う環境の確保のため、入学定員及び収容定員に沿って在籍学生を適切に確保しているか。</p>	<p>【子ども発達教育学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども発達教育学科の平成31年度入学定員充足率116%、収容定員充足率104% ・一般入試, DNC利用入試も、それぞれの募集定員を適切に確保できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ2年, 志願者の減少傾向がみられる状況にある。 ・学科が想定するアドミッション・ポリシーに適合している学生を確保できているかどうか検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動を活性化する。 ・アドミッション・ポリシーの見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・ホームページ>大学案内>教育研究活動等の公表>教育情報>大学(在学者数,収容定員,編入学定員,編入学生数等) https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/4zaigakusuu_daigaku.pdf
	<p><視点> 2-1-③入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持</p> <p>(留意点) □教育を行う環境の確保のため、入学定員及び収容定員に沿って在籍学生を適切に確保しているか。</p>	<p>【健康栄養学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年3月現在, 健康栄養学部管理栄養学科の平成31年度入学定員充足率74%、収容定員充足率89%となっており、収容定員、入学定員とも適切な確保はできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入試種別ごとに定めている目標入学人数に沿って適切に入学を確保することにより、収容定員の充足も維持することが課題である。特に、一般入試による入学人数の確保が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H31年度入学生から新カリキュラムによる教育となるため、積極的に大学ホームページ, オープンキャンパス, 高校訪問, 在学生による母校訪問等、教育広報活動を展開し、学科の教育体制充実を広報する。 ・収容定員確保に向けては、退学・休学者を出来るだけ出さないように学科内教員で情報を共有し、チューター、授業担当者が学生へ丁寧に指導する。 ・管理栄養士国家試験合格率の向上を図るように学生教育の内容を再考する。 ・入学前教育についても、入学後、学修の成果につながる内容を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ>教育研究活動等の公開>情報の公開>公開する教育情報>入学人数(大学,大学院,短期大学部) https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/4nyuugakushasuu.pdf ・ホームページ>大学案内>教育研究活動等の公表>教育情報>大学(在学者数,収容定員,編入学定員,編入学生数等) https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/4zaigakusuu_daigaku.pdf ・2019学生便覧

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準2. 学生

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画		
【基準項目】 2-2 学修支援	<p><視点> 2-2-①教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備</p> <p>(留意点) □教職協働による学生への学修支援に関する方針・計画・実施体制を適切に整備・運営しているか。</p>	<p>・「学生情報システム(Hilway)」「ディプロマ・サブリメント」などの活用により、学生の学修状況や達成状況を教職員間で共有するとともに、学生一人ひとりの学修に対する相談体制を整備している。</p> <p>・図書館やラーニングcommons、学習サポートセンター、教職指導センターなど、個々の学生の状況・進路に応じた学修支援体制を整備している。</p> <p>・非常勤講師を含む教員全員がオフィスアワーを設置することにより学生との相談時間を確保している。</p> <p>・「学生情報システム(Hilway)」「G Suite」などの運用方法について、教職協働による学修支援を目的とした研修を実施している。</p> <p>・図書館やラーニングcommons、学習サポートセンター、教職指導センターの整備充実を推進している。</p> <p>・6号館ラウンジに椅子を置き、授業待ち時間等における学習スペースとして活用を開始している。</p> <p>・特別な配慮を要する学生については、学修支援検討・コア合同会議において状況を共有し、個に応じた全学的な支援を実施している。</p> <p>・本学としての「学修支援に関する方針」や「学修支援に関する計画」について、3月の教学委員会で策定が急務であることを共通確認している。</p>	<p>・「学生情報システム(Hilway)」「G Suite」などの運用方法について、教職協働による学修支援を目的とした整備や研修は実施しているものの、活用までには至っていない。</p> <p>・本学としての「学修支援に関する方針」や「学修支援に関する計画」について、策定がなされていない。</p>	<p>・「学生情報システム(Hilway)」「G Suite」などの運用について、実践例をもとにFDerによる研修や、FDSD合同研修をさらに推進する。</p> <p>・本学としての「学修支援に関する方針」や「学修支援に関する計画」を次年度内に策定する。</p>	<p>・学修の手引き</p> <p>・学修の手引き(別冊)</p> <p>・ディプロマ・サブリメント</p> <p>・教学委員会規程</p> <p>・「Hilway」システム利用の手引き</p> <p>・FDSD配付資料「アクティブラーニング実践事例集」</p> <p>・「学生情報システム(Hilway)」教員時間割(オフィスアワー)</p> <p>・教職指導センター規程</p> <p>・学修サポートセンター規程</p> <p>・APワーキングLMS運用部会議事録</p> <p>・学修支援検討・コア合同会議議事録</p>	
	<p><視点> 2-2-②TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実</p> <p>(留意点) □教員の教育活動を支援するために、TAなどを適切に活用しているか。</p>	<p>【現代文化学部】</p> <p>・現代文化学部で、教員の教育活動を支援するため、平成30年度に、前期5科目6名、後期10科目19名のSA(スチューデント・アシスタント)を、また、前期1科目3名、後期3科目7名のTA(ティーチング・アシスタント)を活用している。</p>	なし	なし	<p>・比治山大学スチューデント・アシスタント実施要項</p> <p>・比治山大学大学院現代文化研究科ティーチング・アシスタント実施要項</p>	
	<p><視点> 2-2-②TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実</p> <p>(留意点) □教員の教育活動を支援するために、TAなどを適切に活用しているか。</p>	<p>【健康栄養学部】</p> <p>・健康栄養学部は、SA(スチューデント・アシスタント)の活用は行っていない。</p>	<p>・国家試験と臨地実習の準備・実施の制約により4年次生の活用は難しいため、3年生への募集を実施したが、希望者がなく活用できていない。</p>	<p>・3年次生に対し、特定の授業を定めて、内容を周知し積極的な募集を行う。</p>	<p>・比治山大学スチューデント・アシスタント実施要項</p>	
	<p><視点> 2-2-②TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実</p> <p>(留意点) □中途退学者、休学者及び留年者への対応策を行っているか。</p>	<p>・平成30年度の休学者は在籍者に対して2.7%であり、3年連続で減少している。また、退学者は在籍者に対して3.7%であり、この3年は3～4%で推移している。</p> <p>・休学・退学の諸原因を鑑みて、毎年5月に、大学1.2年生を対象にチューターが面談を行い、早期に発見し解決をはかっている。</p> <p>・留年者に対しては、チューターやゼミ担当者が定期的な連絡を行っている。</p> <p>・学籍異動の事案については、教員と職員の間で綿密な情報交換を行いながら対応している。</p> <p>・平成30年度からウェルネスセンターに専任の学生相談員1名を置いて、心のケアが必要な学生の相談を受け、休退学や留年を未然に防ぐようにしている。</p>	<p>・専任の学生相談員による平成30年(4月～11月)の相談件数は、平成29年度と比較して大幅に増加し、潜在的にあった需要が顕在化している。専任の相談員が常時身近にいるということで、相談件数が増加につながっている。一方で、多忙な相談業務により、心の健康についての啓蒙等の推進活動に本格的に着手できていないことが課題である。</p>	<p>・ウェルネスセンターで、学生相談員の相談業務の見直しを継続する。</p> <p>・平成31年度から非常勤の相談員を1名雇用することを予定している。</p>	<p>・学生便覧(平成30年度版)</p> <p>・教務の基本事項(平成30年度版)</p> <p>・平成26～30年度休退学一覧(について(各学部教授会(5月開催)資料)</p> <p>★平成30年度については平成31年5月1日現在。</p> <p>・1・2年次対象面談の通知</p> <p>・ウェルネスセンター学生相談の状況(平成30年4月～平成31年3月)</p>	

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準2. 学生

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 2-3 キャリア支援	<p><視点> 2-3-①教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/> インターンシップなどを含め、キャリア教育のための支援体制を整備しているか。 <input type="checkbox"/> 就職・進学に対する相談・助言体制を整備し、適切に運営しているか。</p>	<p>・ガイダンスの充実を図るために、「Google Forms」を活用した。ガイダンス中に実施したアンケートをリアルタイムで表示することで学生が参加していることを実感できる運営へと改善した。</p> <p>・キャリア支援室職員とともに就職活動支援業務を体験することにより、事前に就職活動の情報を収集し自身の就職活動に活かせるキャリアサポーター制度を導入し、大学1年生及び2年生を対象に募集したところ1名の応募があった。</p> <p>・キャリア運営委員会で、各学科のキャリア支援の取組状況を共有し、次年度の取組への参考とした。</p> <p>・個別指導を希望する学生が多く、なんでも相談会の利用者が増加した。</p>	<p>・学生の就職活動状況の把握が難しい。</p> <p>・就職活動時期の早期化及び長期化の対応が課題である。</p>	<p>・キャリア支援室員(学科担当事務)及び学科のキャリア運営委員が連携し、学生の情報収集を行う。</p> <p>・ガイダンスの内容等を見直し、適切な時期に情報を提供する。</p>	<p>・比治山大学キャリアセンター規程</p> <p>・平成31年度就職活動支援プログラム</p> <p>・2019比治山大学キャリア支援講座</p> <p>・JOB HUNTING GUIDE2019-2020</p> <p>・2019シラバス</p> <p>・インターンシップ学生一覧</p> <p>・2019ひろしまフラワーフェスティバル「ひろえば街が好きになる運動」学生ボランティア</p> <p>・会社見学バスツアー</p> <p>・キャリアサポーター募集</p>

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準2. 学生

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 2-5 学修環境の 整備	<p><視点> 2-5-①校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理</p> <p>(留意点) □教育目的の達成のため、校地、運動場、校舎、図書館、体育施設、情報サービス施設、付属施設などの施設設備を適切に整備し、かつ有効に活用しているか。 □施設・設備の安全性(耐震など)を確保しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目的の達成のため、大学設置基準に定める施設として、会議室、事務室、研究室、講義室、演習、実験・実習室、図書館等を整備し、アリーナやトレーニングルーム、グラウンド、テニスコートの施設も備えている。 ・施設の維持管理は、各法令に規定された点検・検査やトイレ・廊下・階段・講義室・実習室の清掃を行う等、教育環境の管理を行っている。 ・3号館の改築について、学生が有効に活用できるラーニング・コモンズ等の施設設備の検討を進め、基本設計を行っている。 ・3号館改築に伴う実習室や研究室の移転先は決定した。 ・1号館・4号館の改修工事は完了、8号館機能の移転を行った。 ・平成31年3月末現、牛田キャンパスの耐震化率は83.2%である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新3号館の施設設備計画の策定が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き新3号館に整備する教室等の検討を行う。 ・3号館実習室・研究室の移転先である2号館の改修計画と移転計画を進める。 ・平成34年度末の牛田キャンパス耐震化率100%達成に向け計画を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・牛田キャンパス施設整備マスタープラン ・比治山大学3号館校舎改築関連各種工事スケジュール
	<p><視点> 2-5-②実習施設、図書館等の有効活用</p> <p>(留意点) □適切な規模の図書館を有しており、かつ、十分な学術情報資料を確保しているか。開館時間を含め図書館を十分に利用できる環境を整備しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館は短期大学部との共用で、ラーニング・コモンズ(愛称Me+Library)を有しており、授業にも利用されている。 ・所蔵冊数は、平成31(2019)年3月末現在、213,110冊、図書ほかに、雑誌、電子ジャーナル、データベース、視聴覚資料、電子書籍等を導入しており、OPAC端末とインターネット端末からの所蔵検索機能を整備し学術情報資料を確保している。 ・図書館ホームページについては、平成31(2019)年1月にリニューアル公開した。 ・情報の発信については、「広島県大学共同リポジトリ」(通称HARP)に参加しており、「比治山大学紀要」、「心理相談センター紀要」、「教職課程研究」の論文等をWeb上に公開している。 ・特別文庫として、資料数2,145点の「三島由紀夫文庫」を設置している。 ・開館時間は、授業期・試験期共、平日は、8時30分～19時であるが、平成30(2018)年度より、7月の開館時間を延長し、8時30分～19時30分とした。土曜日は、隔週(試験期は毎週)10時～16時である。 ・学生の図書館利用は活発で、平成30(2018)年度の入館者数109,522名、図書の貸出冊数11,026冊、DVD等視聴覚資料の閲覧件数923件となっている。 ・自習用パソコンについて、破損が著しい等のトラブルが続出し、補正予算で新システムを導入した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学科、コース、カリキュラムの新設・変更に伴い図書が増加し、保存場所が不足している。また、入館者数の増加で居場所がないという図書館の狭隘化がさらに進んでいる。 ・デジタル化への対応が遅れており、今後は電子書籍やデータベース等のデジタル資料の充実や次世代型OPACの導入を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年2月に提出した「図書館調査会」報告書に基づき、可能な限り、設備・備品とデータベースや電子書籍など資料の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用ガイドブック ・図書館利用ガイドブックミニ ・ホームページ>比治山大学図書館 http://www.hijiyama-u.ac.jp/library/index.html ・広島県大学共同リポジトリ(通称HARP) http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hijiyama-u/ ・平成30年度図書館利用統計 ・「図書館調査会」報告書
	<p><視点> 2-5-②実習施設、図書館等の有効活用</p> <p>(留意点) □教育目的の達成のため、コンピュータなどのIT施設を適切に整備しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の自習端末システムには、Google社のChrome OSを搭載したChromebookを採用し、以前と同じ40端末によるシステム導入を完了(図書館1階)した。3月上旬から運用を開始した。以前の学生印刷枚数管理の機能をそのまま踏襲し、カラー印刷機能が加わっている。また本学で運用中のGSuite(Google社)と緊密に連携しているため、アクティブラーニングを含み今後の運用拡大が期待される。Windows端末の時と異なり、クラウドベースのOffice Onlineを導入し、図書館で作成した文書を他の場所に移動した後も容易に編集できるようになった。 ・無線LAN工事は、4月第一週までに導入完了を予定している。 ・ディプロマ・サブリメントは、機能上の不調を修正している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の自習端末システムを全学的に普及するサポートを継続する。 ・図書館2階の自習端末の更新を行う。 ・新学期の授業に影響が出ないよう無線LANシステムを完成させる。 ・ディプロマ・サブリメントは不調を修正し、4月中に学生入力が開始できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報システム室より図書館にサポート要員を送る。 ・図書館2階は従来のWindows端末も混用して学生の利便を図る。 ・無線LAN導入に続いて、運用効果を実施(サイトサーベイ)し、各アクセスポイントの詳細設定を行う。 ・ディプロマ・サブリメントは修正後、再度入力テストを実施し、不調箇所のないことを確認し、全学生による入力を開始する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入した印刷管理システム https://www.printmanagement.jp/feature/ ・導入した端末 http://www.asus-event.com/pdf/asusjp-brochure-Chromebook_2017autumn.pdf ・導入した無線LANシステム https://www.fortinet.co.jp/products/secure-wifi/access-points.html ・ディプロマ・サブリメント入力手順資料

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準2. 学生

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画		
	<p><視点> 2-6-①学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用</p> <p>(留意点) □学生への学修支援に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備し、学修支援の体制改善に反映させているか。</p>	<p>・平成28年度からe-ポートフォリオシステム「Hi!step」「Hi!check」を運用している。学生入力による自身の学修活動におけるPDCAサイクルの省察、学修支援への意見・要望の把握並びに教員のコメントによる支援が次第に波及している。</p> <p>・「AP学生モニターに対する聞き取り調査」の実施により、集約された「比治山型アクティブラーニング」「4×3の比治山力」「学修成果の可視化」に関する学生の意見は、APAL/可視化部会におけるFDeR養成研修での報告を経て、各学科会議、学科FDの授業改善へとつながっている。また、その結果は質的転換加速化本部、運営戦略本部・各種委員会を通して全学的に周知している。</p> <p>・学生アンケートのうち、学生支援に関する課題については、執行部会、運営戦略本部会議を経て、HiWay掲載により学生にフィードバックしている。</p> <p>・学修及び授業支援に対する学生の意見等については、日常的にチューターや学生支援室の職員を中心に、くみ上げる体制が整備されている。</p>	<p>・現状でのe-ポートフォリオシステム入力状況によると、いくつか未達の部分がある。</p> <p>・学生アンケート、学生モニターの内容には、学習規律や評価に関する課題が散見される。</p>	<p>・実際の活用例(比治山型ディプロマ・サブリメント)を具体的に示すことにより、学生・教員・職員が入力することの意義や効果をさらに積極的に見出せるようにする。</p> <p>・FDeRによる研修を通して、ALの授業デザインやルーブリック評価の実践等の共有を推進する。</p>	<p>・AP学生モニターに対する聞き取り調査(AL推進室)</p> <p>・平成29年度実施アンケート課題への対応</p> <p>・学習の手引き(別冊)</p> <p>・e-ポートフォリオシステム「Hi!step」「Hi!check」入力状況</p>	
<p>【基準項目】 2-6 学生の意見・要望への対応</p>	<p><視点> 2-6-②心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用</p> <p>(留意点) □学生生活に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備し、学生生活の改善に反映しているか。</p>	<p>・中期計画の見直しで、学生への経済的支援の方法の検討するようこの指示を受け、検討に入った。</p> <p>・学生会と大学祭実行委員会支援のためのリーダートレーニングを実施し、学生からの意見や要望を吸い上げ、よりよい方向に教職員が支援し導けるよう努めている。また、リーダートレーニングや大学祭などの行事の後の反省会に教員も参加することで、できるだけ学生の意見を吸い上げている。</p> <p>・普段から、学生支援室の担当職員が学生の意見を聞くように努めており、学科の学生委員が学生の声を聴き、必要な事項を学生委員会で検討するシステムとしている。</p>	<p>・クラブ活動活性化制度でクラブ活動をより充実に導く。</p> <p>・比治山大学の特色あるクラブである「射撃部」と「神楽部」への支援策を検討する。</p> <p>・クラブ加入率を高めるためには、現在行っているhana祭りの一層の充実を図る。①サークル活動をすることで学生生活を充実できると感じさせる仕掛けが必要であるため、大学祭での発表会の精度を高め、一般学生の参加を促す。②クラス参加なども検討し、できる範囲で実行する。③教職員の支援を呼びかける。</p> <p>・学生に対する経済的支援策を検討する。</p> <p>・クラブ活動活性化制度でクラブ活動をより充実に導く。</p> <p>・学生へ通常生活の中での経済的支援策を検討する。</p>	<p>・リーダートレーニングを充実させクラブの活性化を図る。</p> <p>・クラブ活動活性化制度の成果を検討し予算の充実を図る。</p> <p>・特色あるクラブの支援に不足しているものを検討し、それを補える方策を検討する。射撃部については、射撃場の建設が見送りになったため、他の施設に練習を行うため出向く必要がある。これをできるだけ支援するような方策を検討する。</p> <p>・学生の経済的支援策として、入学時の支援や成績からの支援が考えられるが、これらは全学的な検討を行う。</p>	<p>・クラブ活性化支援金制度</p> <p>・新入生アンケート調査結果</p> <p>・卒業生アンケート調査結果</p> <p>・学生モニター制度議事録</p>	

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準2. 学生

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画		
【基準項目】 2-6 学生の意見・ 要望への対応	<p><視点> 2-6-②心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用</p> <p>(留意点) □学生生活に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備し、学生生活の改善に反映しているか。</p>	<p>・学生の心身の健康管理・健康相談に関する問題や保健師・学生相談員らが直接聴取した学生の意見について、ウエルネスセンター運営委員会や学生相談連絡会で検討し、改善策として本年度常勤学生相談員を採用した。</p> <p>・非常勤相談員の採用について、平成31年度予算で措置が行われ、採用することになった。現在募集中である。</p>	<p>・非常勤相談員を効果的に活用すること。</p> <p>・相談記録管理の見直しと学生相談のデータベース化を行うこと。</p> <p>・休退学の現状分析と対策を検討すること。</p> <p>・教職員相談への対応の体制が不十分であること。</p>	<p>・ウエルネスセンター長、職員が定期的に検討を行い、ウエルネスセンター運営委員会においても検討をする。</p>	<p>・比治山大学ウエルネスセンター規程</p> <p>・比治山大学ウエルネスセンター平成30年度活動報告</p>	
	<p><視点> 2-6-③学修環境に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用</p> <p>(留意点) □施設・設備に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備し、施設・設備の改善に反映しているか。</p>	<p>・特色あるクラブに大学から認定されている射撃部のライフル射撃練習場が整備されていない。国体出場を狙う選手たちは、学生たちは射撃場の設置を望んでいる。</p> <p>・駐輪場のトラブルに関して監視カメラの設置を委員会としても要望していたところ、トラブルを受けた学生からも要望があり、1月に設置の運びとなった。</p>	<p>・射撃部のライフル射撃練習場の設置が課題である。</p> <p>・学生のくつろぎスペースの検討はまだすすめていない。</p>	<p>・射撃部のライフル射撃練習場設置の予算化ができなかったため、学生が他の練習場に通えるような支援を行う。</p> <p>・学生のくつろぎスペースが、学内にどれくらいあるのかのマップを作成し、他大学の現状を調べ、来年度から検討に入る。</p>	<p>・平成31年度予算申請書</p>	

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準3. 教育課程

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 3-1 単位認定、 卒業認定、 修了認定	<視点> 3-1-①教育目的を踏まえた ディプロマ・ポリシーの策定と 周知 (留意点) □教育目的を踏まえ、ディ プロマ・ポリシーを定め、周知し ているか。	【現代文化学部・現代文化研究科】 ・建学の精神、教育目的、ミッション、ビジョンを踏まえた大学のディプロマ・ポリシーに基づき、学部・研究科のディプロマ・ポリシーを定め、ホームページや学生便覧に掲載し周知している。	なし	なし	・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧
		【健康栄養学部】 ・建学の精神、教育目的、ミッション、ビジョン、大学のディプロマ・ポリシーを踏まえ、豊かな人間力と健康の維持・増進のための栄養マネジメントの知識・技術並びに地域社会の発展に貢献できる能力を身につけた学生となるよう、完成年度の平成30年4月より新たなディプロマ・ポリシーを定め、ホームページや学生便覧に掲載し周知している。	・管理栄養士養成施設として、その土台となる栄養士養成が充実し、管理栄養士養成に発展している内容であることが、高校生や社会に周知されているかを把握することが課題である。	・新しいディプロマ・ポリシーが周知されているかの確認が必要である。	・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧
	<視点> 3-1-①教育目的を踏まえた ディプロマ・ポリシーの策定と 周知 (留意点) □教育目的を踏まえ、ディ プロマ・ポリシーを定め、周知し ているか。	【言語文化学科日本語文化コース】 ・ことごと一体化した言語の運用能力を養成するとともに、言語によって創造される文化への理解を深め、地域社会や国際社会で活躍できる人材を育成する学科の教育目的を反映させたディプロマ・ポリシーを定め、ホームページや学生便覧に掲載し周知している。	なし	なし	・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧
		【言語文化学科国際コミュニケーションコース】 ・言語の運用能力を養成するとともに、言語によって創造される文化への理解を深め、地域社会や国際社会で活躍できる人材を育成する学科の教育目的を反映させたディプロマ・ポリシーを定め、ホームページや学生便覧に掲載し周知している。	・ホームページや学生便覧などへの周知の効率化を図る。	・広報素材の見直しと学生のニーズの把握に一層務める。	・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧
		【マスコミュニケーション学科】 ・大学及び学部のディプロマ・ポリシーを踏まえた上で、メディア・観光分野を通じ、社会に積極的に関わっていく人材を育てるという学科の教育目的を反映させた学科のディプロマ・ポリシーを策定し、ホームページや学生便覧等に掲載し周知している。	・策定したディプロマ・ポリシーを学生に、より周知・認識させるための更なる方法の検討が必要である。	・ディプロマ・ポリシーとカリキュラム体系との関連性を検証する。各科目においてその意義と具体的な達成目標について周知させることが必要である。	・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧
【社会臨床心理学科】 ・建学の精神、大学の教育目的、ミッション、ビジョンをふまえた上で、平成30年度から公認心理師養成に対応するディプロマ・ポリシーを策定し、ホームページや学生便覧等に掲載し周知している。	なし	なし	・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧		

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準3. 教育課程

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画		
【基準項目】 3-1 単位認定、 卒業認定、 修了認定	<視点> 3-1-①教育目的を踏まえた ディプロマ・ポリシーの策定と 周知 (留意点) □教育目的を踏まえ、ディ プロマ・ポリシーを定め、周知し ているか。	【子ども発達教育学科】 ・子どもの発達の多面的、総合的な教育研究を通して、子どもの豊かな表現力・判断力・ 思考力を支援・指導するための教育的実践力を養成、地域社会において子育てや教育な ど次世代の育成支援に貢献できる人材を育成するという教育目的を踏まえ、学科のディ プロマ・ポリシーを策定し、ホームページや学生便覧に掲載して周知している。	・策定したディプロマ・ポリシー の社会への広い周知が必要 である。	・ディプロマ・ポリシーの広報 活動を展開する必要がある。 ・オープンキャンパスにおける 集客の拡大を図る。 ・学科ウェブサイトの充実を図 る。	・ホームページ>大学案内>三つ の方針 https://www.hijiyama- u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018年度学生便覧	
		【管理栄養学科】 ・「建学の精神」、教育目的、ミッション、ビジョン、大学のディプロマ・ポリシーを踏まえ、豊 かな人間力と健康の維持・増進のための栄養マネジメントの知識・技術並びに地域社会 の発展に貢献できる能力を身につけた学生となるよう、完成年度の平成30年4月より新た なディプロマ・ポリシーを定め、ホームページや学生便覧に掲載し周知している。	・策定したディプロマ・ポリシー が、管理栄養士養成へ発展し ている内容であることを、学 生、社会に周知・認識させる。	・学生には、各授業でディプロ マポリシーとの関連を周知す る。社会や高校生には、広報 活動を展開する。	・ホームページ>大学案内>三つ の方針 https://www.hijiyama- u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧	

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準3. 教育課程

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 3-2 教育課程及び教授方法	<p><視点> 3-2-②カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性 (学部)</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーとの一貫性が確保されているか。</p>	<p>【現代文化学部・現代文化研究科】 ・平成31年度に向けて、学部のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの見直しを行った。 ・カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーとの一貫性を確保するため、3つのディプロマ・ポリシーそれぞれに対応させて策定している。 ・ディプロマ・ポリシーを具体化・細分化した達成目標としてディプロマ・サブメント項目を作成し、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーとの一貫性に留意しながら、ディプロマ・サブメント項目と専門教育科目との紐付けを行った。</p>	なし	なし	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧</p>
		<p>【健康栄養学部】 ・学部・学科のカリキュラム・ポリシーは3項目に変更し、ディプロマ・ポリシーの項目は、カリキュラム・ポリシーのそれぞれに対応させた順とし、一貫性を確保している。</p>	なし	なし	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧</p>
		<p>【言語文化学科日本語文化コース】 ・平成31年度に向けて、学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの見直しを行った。 ・カリキュラム・ポリシーはディプロマ・ポリシーに基づいて作成し、両者の一貫性を確保している。</p>	なし	なし	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧</p>
		<p>【言語文化学科国際コミュニケーションコース】 ・平成31年度に向けて、学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの見直しを行った。 ・カリキュラム・ポリシーはディプロマ・ポリシーとの一貫性を確保するため共通教育の英語科目を含めて一学年にそれぞれ2科目の英語コア・カリキュラムを実施している。カリキュラム・ポリシーはディプロマ・ポリシーに基づいて作成し、両者の一貫性を確保している。</p>	<p>・カリキュラム・ポリシーとの一貫性を保つことが課題である。具体的には少人数クラスの実現などが課題である。</p>	<p>・英語学習の効果を高めるため、新たな方策を模索する。</p>	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧</p>
		<p>【マスコミュニケーション学科】 ・平成31年度に向けて、学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの見直しを行った。 ・カリキュラム・ポリシーはディプロマ・ポリシーとの一貫性を確保するため、学科の強みであるアクティブ・ラーニング等や日本語検定合格率の向上を目指した授業推進を図っている。</p>	<p>・ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーとの一貫性を意識した学修成果の公表を推進する。</p>	<p>・一貫性を常に意識するといい、教員によるモチベーションの向上を図る。</p>	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧</p>
	<p>【社会臨床心理学科】 ・平成30年度からの公認心理師養成に対応するため、三つの方針の見直しを行った際に、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの一貫性に配慮してこれらのポリシーを作成しており、一貫性は確保されている。</p>	なし	なし	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧</p>	

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準3. 教育課程

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 3-2 教育課程及 び教授方法	<視点> 3-2-②カリキュラム・ポリシー とディプロマ・ポリシーとの一 貫性 (学科) (留意点) <input type="checkbox"/> カリキュラム・ポリシーは、 ディプロマ・ポリシーとの一貫 性が確保されているか。	【子ども発達教育学科】 ・平成31年度に向けて、学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを改善した。 ・カリキュラム・ポリシーはディプロマ・ポリシーとの一貫性を確保するため3項目に変更した。	なし	なし	・ホームページ>大学案内>三つ の方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018年度学生便覧
		【管理栄養学科】 ・学科のカリキュラム・ポリシーは3項目に変更し、ディプロマポリシーの項目は、カリキュ ラムポリシーのそれぞれに対応させた順とし、一貫性を確保している。	なし	なし	・ホームページ>大学案内>三つ の方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準3. 教育課程

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画		
【基準項目】 3-2 教育課程及び教授方法	<p><視点> 3-2-③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施しているか。 (共通教育) □シラバスを適切に整備しているか。 □教授方法の改善を進めるために組織体制を整備し、運用しているか。 □履修登録単位数の上限の適切な設定など、単位制度の実質を保つための工夫が行われているか。</p>	<p>・カリキュラム・ポリシーに沿って、全学共通の共通教育と学科ごとに実施する専門教育による教育課程を体系的に編成し、専門教育においてはナンバリング、及びカリキュラムマップを示し、教育課程の全体像が把握できるようにしている。 ・共通教育は、「基礎的人間力」の育成を目標とし、「比治山ベーシック科目」と「教養科目」でカリキュラムを編成している。 ・シラバスには「ディプロマ・ポリシーとの関連」「到達目標」「免許・資格」「免許・資格の科目区分」の項目を設けて、各学科のカリキュラム・ポリシーに沿うような形で適切に整備している。 ・授業方法の改善を進めるために、コア・アクティブ・ラーニング科目を中心とした授業参観の促進並びにFDeerを中心としたレッスンスターディを行っている。 ・学生の授業時間外学修や授業での双方向活動が促されるような「G Suite」の活用方法に関するワークショップを実施している。 ・単位制度の実質化を保つため、「比治山大学履修規程」に基づき各セメスターで履修登録できる単位数の上限を24単位とし、学生の主体的な学びを促す学修時間を確保している(一部に30単位を上限とする場合あり)。</p>	<p>・学生の授業時間外学修や授業での双方向活動が促されるような「G Suite」の活用方法のうち、Classroom機能の事例が不足している。 ・Classroom機能を活用するための学内のwifi環境が整備できていない。</p>	<p>・APワーキングLMS運用部会を中心に、Classroom機能を活用したモデル授業の構築が必要である。 ・Classroom機能の活用が可能な学内のwifi環境の整備が必要である。</p>	<p>・2018学生便覧 ・シラバスフォーマット ・2018年度ディプロマ・ポリシー ・2018年度カリキュラム・ポリシー ・比治山大学履修規程 ・LMS運用部会議事録</p>	
	<p><視点> 3-2-③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施しているか。</p>	<p>【言語文化学科日本語文化コース】 ・カリキュラム・ポリシーに即し、カリキュラムは日本語学・日本文学・日本文化を柱に、表現・創作、国語科教育も含めて、必要なスキルを身につけるための科目を配置しながら、教育課程を体系的に編成している。</p>	<p>・平成31年度にカリキュラム・ポリシーが見直される。それに伴い、カリキュラム内容の点検・確認が必要である。 ・教職課程の再課程認定に即したカリキュラム内容であるかの確認が必要である。</p>	<p>・平成31年度版のカリキュラム・ポリシーや、教職課程の再課程認定に即したカリキュラムになっているかを点検・確認し、不都合がある場合はカリキュラム変更の手続きの準備を整える。</p>	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/cam ・2018学生便覧</p>	
	<p><視点> 3-2-③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施しているか。</p>	<p>【言語文化学科国際コミュニケーションコース】 ・国際コミュニケーションコースのカリキュラム・ポリシーに即し、全学共通の共通教育である比治山ベーシック科目のコミュニケーションリテラシーなどと共に、専門科目では「国際コミュニケーションスキル」や「国際言語文化」などを中心に体系的な教育科目を編成している。</p>	<p>・比治山ベーシック科目のコミュニケーションリテラシーなどと共に、専門科目では「国際コミュニケーションスキル」や「国際言語文化」などをさらに充実させる。</p>	<p>・来年度のカリキュラムなどの改定に向けて、検討を進める。</p>	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧</p>	
	<p><視点> 3-2-③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施しているか。</p>	<p>【マスコミュニケーション学科】 ・メディア・観光分野に関する基礎知識を学ぶ「基礎」科目を設けている。 ・メディア・観光分野に関する表現力・取材力・企画力などを身に付ける「専門」科目を設けている。 ・「基礎」「専門」で身に付けた知識・スキルを実践力へと高める「発展応用」科目を設けている。 ・平成30年度より、観光系科目を15科目から19科目に増加した。主に観光ビジネス系の科目の増加であり、観光系資格に関する科目「簿記論」も導入した。</p>	<p>・不明確であった「専門」「発展応用」の区分基準を明確化し、学生にも判りやすいカリキュラム体系を再構築する。</p>	<p>・観光系科目の新体系構築に伴う、学生の興味関心度、学修成果への効果の検証を図る。 ・観光系導入のH27年度より、各セメスターごとに全学年対象の「観光系分野に関する興味関心度調査」を実施しており、そのデータ分析を実施する。</p>	<p>・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/cam ・2018 学生便覧</p>	

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準3. 教育課程

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画		
【基準項目】 3-2 教育課程及び教授方法	<p><視点> 3-2-③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施しているか。</p>	<p>【社会臨床心理学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・ポリシーに即し、専門科目の履修を通して心理学に関する専門的知識・技能、さらに社会で活躍をめざす力量と態度を身につけられるカリキュラムを編成している。 ・「専門領域科目」では自己理解及び他者理解、「実践科目」では支援・援助の能力を高めることを目標とした科目を構成している。 ・「基礎科目」「特別研究」では心に関する科学的理解を深め、心理実験・調査と、その報告書作成についての専門的知識と技能を身につけることを目標とした科目を構成している。 ・「発展科目」では心理学の専門性を活かして地域社会の要望に応え、課題解決に向き合う力量と態度を高める科目を構成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たなカリキュラム実施の1年目であり、今後の実施状況を確認する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年目以降も三つの方針に沿ったカリキュラムが実施されているかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧 	
	<p><視点> 3-2-③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施しているか。</p>	<p>【子ども発達教育学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマ・ポリシーを踏まえたカリキュラム・ポリシーに沿って、再課程認定に適合するカリキュラムを編成し、次年度より実践する。 ・子どもの健全な発達を支援するにふさわしい人材となることをめざした組織的・体系的・実践的な専門教育カリキュラムを編成し、次年度より実践する。 ・学生がめざす進路に応じて専門的学修と実習を重ねることができ、関連免許・資格の取得とともに、卒業研究を深め卒業論文が完成できるようにカリキュラムを編成し、次年度より実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーとの整合性を常に吟味するとともに、学生による意見・評価を収集し、改善の参考にすることが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム検討のための学科研修会を計画的継続的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧 	
	<p><視点> 3-2-③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成</p> <p>(留意点) □カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施しているか。</p>	<p>【管理栄養学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度からの新カリキュラムでは、専門教育科目の卒業要件に係る単位数を、「必修70単位を含む100単位以上」から「必修63単位を含む67単位以上」にスリム化させる方向で策定している。これは、学生の自習学修時間の整備と管理栄養士国家試験合格への学修効果の向上を図るためである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・ポリシーの1項、ディプロマ・ポリシーの「社会人としての幅広い視野と豊かな人間性を備え」るには、教養教育の観点から、共通教育科目について精査する。比治山ベーシック科目と教養科目を幅広く自由選択できるようにする。 ・学生の教育に関わる全ての教員が三つのポリシーを共通理解し、連携して質の高い教育に取り組むことができるようにすることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教養科目(共通教養科目)のカリキュラムについて、来年度の改定に向けて、今後検討を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ>大学案内>三つの方針 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/policies.html ・2018学生便覧 	

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準3. 教育課程

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 3-2 教育課程及 び教授方法	<視点> 3-2-④教養教育の実施 (留意点) <input type="checkbox"/> 教養教育を適切に実施して いるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・教学委員会の下、「比治山ベーシック科目」に含まれる「スタートアップ」「キャリア形成」「日本語」「外国語」「情報」についてそれぞれ専門委員会を置き、専門的事項を審議し、各専門委員長を通して、幹事会や教学委員会へ反映させている。 ・教養教育に関しては、平成31年度カリキュラムの編成方針のもと、教学委員長、教学副委員長(2人)及び学生支援室長の4人での打ち合わせ会で検討し教学委員会に諮っている。 ・平成32年度カリキュラム編成方針に基づき、3つのポリシーのもと学生の学修を主体とする教育プログラムの展開を実現すべく検討を開始している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の状況や変化に即した教養教育のあり方が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成32年度カリキュラム編成方針に基づき、教養教育のあり方について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2018学生便覧 ・H32年度カリキュラム編成方針

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準3. 教育課程

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	課題	行動計画	
【基準項目】 3-2 教育課程及 び教授方法	<p><視点> 3-2-⑤教授方法の工夫・開発 と効果的な実施</p> <p>(留意点) □アクティブ・ラーニングなど、 授業内容・方法に工夫をして いるか。</p>	<p>【言語文化学科】</p> <p>【言語文化学科日本語文化コース】 ・日本語文化コースでは、日本語表現関係科目における少人数クラス編成、創作関係科目における小説・詩・短歌・俳句等の個別指導、特に「日本語文化研修」の学外実地授業における文化体験フィールドワーク及びそのレポート作成に基づいた日本語文化の総合的かつ融合的な理解など、体験的な授業にも力を入れている。また、その他の授業においても、コース全体でアクティブ・ラーニングの手法を用いた授業を推進している。</p>				<p>・第20回日本語文化研大和研修実施要項、しおり、資料集</p> <p>・2018学生便覧 ・学科リーフレット ・Hijiya Student Times</p>
		<p>【言語文化学科国際コミュニケーションコース】 ・国際コミュニケーションコースでは共通教育の英語科目も含めて一学年にそれぞれ2科目の英語コア・カリキュラムを実施し、相互にテキストや授業内容を連携させ教育効果を高めている。 ・コース分属前の1年次で、国際コミュニケーションコース希望学生に対しては英語コア・カリキュラムの履修指導をしている。 ・英語授業は習熟度別に少人数(20名以下)のクラス編成である。英語リテラシーや英語基礎の科目では、コンピュータを用いた自習が可能なe-learningを全員に実施している。</p>	<p>・「4×3の比治山力」育成という全学的教育目標及び3つのポリシーに照らした場合の、細部の整合性について引き続き検討し、授業方法の工夫や開発については、アクティブ・ラーニングの多様性を踏まえて、授業の内容に応じたあり方を検討し、実施している。</p>	<p>・「4×3の比治山力」育成という全学的教育目標及び3つのポリシーに照らした場合の、細部の整合性について引き続き検討し、授業方法の工夫や開発をする。また、学生間の学力の差、学生の学ぶ意欲の問題などさらに検討している。</p>	<p>・少人数教育のさらなる徹底と、きめ細かい個人指導などを徹底する。また、e-learningなどの活用をすすめる。今後は、インターネットを利用した英会話の導入なども検討している。</p>	
		<p>【マスコミュニケーション学科】 ・学生自らが「動き、考え、発信する」力を育てるために、グループワーク・フィールドワーク等を中心とした授業を積極的に展開している。(観光施設や地域イベントでの取材・広報パンフ作成など) ・行政や企業とのコラボレーションにも授業等で積極的に取り組んでいる。(バスツアー開発・観光プランづくり・協力企業の入社案内作成など) ・学生の取り組みが外部団体から受賞されるなど実績を重ねている(観光系コンテスト、メディア系コンテストなど)。</p>	<p>・学生の基礎学力の格差がもたらすグループワークの難しさが顕著に現れている。 ・学生のモチベーションの格差がもたらすグループワークの難しさが顕著に現れている。 ・企業や地域とのコラボレーション活動のレベルアップを図る。</p>	<p>・学生の基礎学力の格差への対応プログラム導入を検討する。</p>	<p>・H30年度作成の学科作成広報パンフレット ・各ゼミの取組み成果等</p>	
<p><視点> 3-2-⑤教授方法の工夫・開発 と効果的な実施</p> <p>(留意点) □アクティブ・ラーニングなど、 授業内容・方法に工夫をして いるか。</p>	<p>【社会臨床心理学科】 ・「心理実験演習」「心理学実験」「心理査定演習」において大学院生のTeaching Assistantを活用し、先輩との接触を通して心理学専門職への意欲を喚起すると同時に、同級生との新しい人間関係を実現する経験をさせている。 ・「初年次セミナーⅡ」「社会臨床心理学」では、社会で活躍している卒業生を講師として招き、将来の進路を考える場を積極的に提供している。 ・卒業論文発表会をパネル形式で行い、よりアクティブな学びを促進できるようにしている。 ・「心理演習A」ではロールプレイをビデオカメラで録画再生することにより、コミュニケーションスキルの訓練を行っている。</p>	<p>・平成31年度から始まる公認心理師養成のための学外実習を効果的に行う必要がある。</p>	<p>・実習先と綿密な連絡を取りながら実習を行い、学生の実習記録ノートや担当教員・実習先の評価などをもとに、改善を検討する。</p>	<p>・2017学生便覧 ・2018学生便覧 ・2019年度シラバス</p>		

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準3. 教育課程

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 3-2 教育課程及 び教授方法	<p><視点> 3-2-⑤教授方法の工夫・開発 と効果的な実施</p> <p>(留意点) □アクティブ・ラーニングなど、 授業内容・方法に工夫をして いるか。</p>	<p>【子ども発達教育学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新小学校学習指導要領、新幼稚園教育要領、新保育指針に対応するカリキュラムの改訂を行った。 ・「初年次セミナー I・II」では、各自が設定したテーマに基づいて研究方法の基礎を学ばせる学修を展開した。 ・「授業研究A・B・C」「保育実践研究」では、教材研究・指導案作成・模擬授業の実施とともに、フィードバックを重視したVTR活用を導入した。 ・授業観察研修会を実施し、授業方法工夫の推進について共通の理解を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用を含めた教授方法の工夫をより一層充実させていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学科内での教員間研修をより一層充実させる。 ・コミュニケーション力の育成・チームワーク力の育成を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度小学校教育実習・幼稚園実習・保育実習評価 ・実習巡回訪問記録の記載
	<p><視点> 3-2-⑤教授方法の工夫・開発 と効果的な実施</p> <p>(留意点) □アクティブ・ラーニングなど、 授業内容・方法に工夫をして いるか。</p>	<p>【管理栄養学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「初年次セミナー I」では能動的学修の定着を、「初年次セミナー II」では、少人数のクラス編成による基礎学力の向上を図った。その結果、基礎学力の向上が確認できた。 ・実験・実習科目の内容がアクティブ・ラーニングであるが、教育方法の改善に向けて取り組みを行っている。 ・入学前教育については、より大学入学後の授業が進むように、新しくプログラムを構築した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・実習科目の内容がアクティブ・ラーニングであるが、教育内容・方法の改善に向けて学科内の取り組みになっていないのが課題である。 ・アクティブラーニングによる学生の理解度や学習の深化など、導入による効果について検証する必要がある。 ・入学前教育について、新しく構築したプログラムを検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、「初年次セミナー I」は能動的学修の定着、「初年次セミナー II」は、少人数クラス編成により基礎学力の向上を図る。 ・新たに学生のプレゼンテーション力を高める内容も取り入れ、外部講師からの評価も受ける計画をする。 ・臨地実習事前事後指導A・Bは、学内での学修を学外で応用させるため、学生自らが課題設定し解決する新しいプログラム構成を計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2019学生便覧

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準3. 教育課程

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 3-3 学修成果の 点検・評価	<p><視点> 3-3-①三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用</p> <p>(留意点) □ 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、就職先の企業アンケートなどにより、学修成果を点検・評価しているか。</p>	<p>・「学生情報システム(Hilway)」を通して、学生の出席、課題提出状況のほか、履修科目の成績や資格取得状況、学生自身が設定している自己目標、成果と課題などを把握している。</p> <p>・「4×3の比治山力(汎用的能力)」について、本学の評価指標である「比治山力レポート」を用いて評価を実施している。なお、学生の汎用的能力修得の状況についてはルーブリックを設定している。</p> <p>・「新規採用者のスキルに関する調査」として、本学卒業生が勤務する企業を対象に「4×3の比治山力」(汎用的能力)についてのアンケートを実施し、学修成果を点検している。</p> <p>・次年度より運用を開始する、各学科のディプロマ・ポリシーを具体化・細分化し可視化したディプロマ・サブリメントの構築に向けて、全項目の確定と最終調整を実施している。</p>	<p>・各学科のディプロマ・ポリシーを具体化・細分化し可視化したディプロマ・サブリメントの活用方法について、学生への周知がなされていない。</p>	<p>・ディプロマ・サブリメント作成に向けた入力方法の確認や活用方法について、前期授業(キャリア関連)や後期オリエンテーションを目的に学生への周知を図る。</p>	<p>・「Hilway」システム利用の手引き</p> <p>・学習の手引き(別冊)</p> <p>・シラバス記入例</p> <p>・「4×3の比治山力」ルーブリック</p> <p>・ディプロマ・サブリメント</p> <p>・リフレクションシート</p>
	<p><視点> 3-3-①三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用</p> <p>(留意点) □ 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、就職先の企業アンケートなどにより、学修成果を点検・評価しているか。</p>	<p>・昨年度の「卒業生対象アンケート調査」「共通教育に関するアンケート調査」は、集計結果を印刷物にまとめて教職員に配付し、学修における成果と課題を関係部局で検討し、本年度の学修指導や授業環境の改善に役立てた。</p> <p>・現在実施している複数のアンケートのうち、「学生による授業に関するアンケート調査」は前期に一部新方式を試行、後期の試行拡大を行い、来年度に向けて検討中である。</p> <p>・授業改善学生モニター意見交換会報告を教員研修会で実施し、課題を全学で共有した。</p>	<p>・「学生による授業に関するアンケート調査」の新形式の試行結果を踏まえ、次年度からのアンケート形式を決定する必要がある。</p> <p>・授業改善学生モニターの意見交換会報告で共有した課題に対する対応が必要である。</p>	<p>・次年度の実施に向けてアンケートの見直しを行う。</p> <p>・授業改善学生モニターの意見交換会報告で共有した課題に対し、学修指導や業務の改善を行う。</p>	<p>・「平成29年度卒業生対象アンケート調査」結果</p> <p>・「平成29年度共通教育に関するアンケート調査」結果</p> <p>・「平成30年度 第2回 比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研修会」実施要項</p> <p>・「平成30年度 第2回 比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研修会」配付資料</p> <p>・平成30年度前期・後期「学生による授業に関するアンケート調査」</p>
	<p><視点> 3-3-①三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用</p> <p>(留意点) □ 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、就職先の企業アンケートなどにより、学修成果を点検・評価しているか。</p>	<p>・キャリア運営委員会で、各科のキャリア教育の取組を共有した。</p> <p>・2月の会議では次年度の各科の取組を情報交換した。</p> <p>・卒業式で就職状況調査を実施した。</p>	<p>・他学科の優れた取組が取り入れられていない。</p>	<p>・学科を超えて連携し、取り組みを充実させるために、学科主任を中心にとりいれるようなシステムが必要である。</p>	<p>・キャリア運営委員会資料</p>

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準3. 教育課程

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画		
【基準項目】 3-3 学修成果の 点検・評価	<p><視点> 3-3-① 三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用</p> <p>(留意点) □ 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、就職先の企業アンケートなどにより、学修成果を点検・評価しているか。</p>	<p>【言語文化学科日本語文化コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生情報システム(Hi!way)により、各教員がチューター学生の「4×3の比治山力(汎用的能力)」の達成度や成績の推移、学生自身が設定している自己目標、成果と課題などを確認し、学習状況や成果等を点検している。それらにより、必要に応じて個別面談などを行い、学修や学生生活の支援を行っている。 ・2名の学生が中学校教員免許状取得を取得し、2名とも広島県の中学校教員として採用された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の学習状況や成果等の点検は、主にチューターと学生の間で行われており、コース内全体の取り組みとは必ずしもなっていない。 ・中学校・高等学校教員免許状を取得できる学生が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員個人で行っている学生の学習状況や成果等の点検をコース全体で行えるような仕組みを整備する。 ・中学校・高等学校教員免許状取得を目指す学生の学力向上や学生生活習慣改善を支援する体制を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「4×3の比治山力」ルーブリック(APワーキング) ・ディプロマ・サブリメント(APワーキング) ・学修の手引き 	
	<p><視点> 3-3-① 三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用</p> <p>(留意点) □ 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、就職先の企業アンケートなどにより、学修成果を点検・評価しているか。</p>	<p>【言語文化学科国際コミュニケーションコース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チューターと学生支援室などが連携して学生を指導している。また、学修成果の点検評価方法や運用については、外部指標として、TOEICなどの導入をはかり、一方では内部指標として、ハイウェイシステムのGPAを活用することで、学生の指導に直接役立っている。また、ディプロマ・ポリシー到達については、卒業生アンケート等を実施し、その結果をフィードバックしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「卒業生対象アンケート調査」「共通教育に関するアンケート調査」や「授業改善学生モニター」などを利用しながら、さらに適切な学習指導を行うことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より適切な学習指導に向けて改善していくために、学科会議、コース会議などで一層の教員同士のコミュニケーションを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「平成30年度卒業生対象アンケート調査」結果 ・平成30年度授業改善学生モニター意見交換会(平成30年度教員研修会資料) 	
	<p><視点> 3-3-① 三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用</p> <p>(留意点) □ 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、就職先の企業アンケートなどにより、学修成果を点検・評価しているか。</p>	<p>【マスコミュニケーション学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「観光系分野への興味関心度調査(1～7セメスター)」の実施により、観光系科目と興味関心に対する経年評価を実施している。観光系分野導入に対する周知度は年々向上し、興味関心度もそれに伴い向上している。 ・「観光プランナー受検」「日本語検定受検」については、H30年度より授業内で戦略的に指導を行い、合格率向上に寄与している。いずれも任意受検ではなく、授業として合格に向けて取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「観光プランナー」「日本語検定」の不合格者に対するフォロー体制(プログラム)が無い。 ・各科目については、学科全体の課題として、学修成果を情報共有できる仕組みが無い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「観光プランナー」「日本語検定」の不合格者に対するフォロー体制(プログラム)を構築する。 ・各科目については、学科全体の課題として、学修成果を情報共有できる仕組みを構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「観光系分野への興味関心度調査」結果 ・H30年度「日本語検定」受検結果 ・H30年度「観光プランナー」受検結果 	

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準3. 教育課程

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 3-3 学修成果の 点検・評価	<p><視点> 3-3-①三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/> 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、就職先の企業アンケートなどにより、学修成果を点検・評価しているか。</p>	<p>【社会臨床心理学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学で統一された内容で科目ごとに授業アンケートを実施している。 ・2年生以上の学生に心理学検定の受験を勧め、受験料の一部を補助している。また、受験者数や結果は学科でとりまとめを行っている。 ・就職活動状況や内定取得状況については、キャリアセンターのみならず、学科のキャリアセンター運営委員が各学生の担当教員を通して情報のとりまとめを行っている。 ・学修成果は科目区分ごとの平均GPA、心理学検定受験者の割合や受験結果等で評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度から始まった公認心理師養成カリキュラムの対象である1年生の中で、公認心理師をめざす学生やそのために大学院進学を考えている学生の割合などが十分把握されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度の初め頃に実施できるよう、学生の意識調査のためのアンケートを準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ>大学案内>点検・評価・研修>平成30年度前期「学生による授業に関するアンケート調査」結果 ・ホームページ>大学案内>点検・評価・研修>平成30年度後期「学生による授業に関するアンケート調査」結果 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/tenken.html ・2018学生便覧 ・第11回心理学検定団体受験結果一覧(2018年度)
	<p><視点> 3-3-①三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/> 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、就職先の企業アンケートなどにより、学修成果を点検・評価しているか。</p>	<p>【子ども発達教育学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学修成果は、小学校教諭免許状・幼稚園教諭免許状・保育士資格の取得状況、及び小学校教員採用試験合格率・公立保育士幼稚園教諭採用試験合格率等によって評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・免許資格取得率、採用試験合格率の他に、適切な評価指標がないか検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学科研修会の開催によって改善策を議論して進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマポリシー達成に向けた外部指標案等
	<p><視点> 3-3-①三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/> 学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、就職先の企業アンケートなどにより、学修成果を点検・評価しているか。</p>	<p>【管理栄養学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三つのポリシーに基づき、入学後の学カテスト、各科目の成績(小テスト、中間テスト、期末テストの結果)、出欠席日数、さらに、管理栄養士国家試験の模擬試験など、学生個人別情報を収集・蓄積し、学科教員が情報の共有をしている。蓄積した情報は、国家試験受験の指導へ運用した。 ・2期生の栄養士取得率は100%、栄養教諭一種免許取得状況は14%、管理栄養士国家試験合格率は77.8%、就職率100%、その内、栄養士・管理栄養士業務就職率は53%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理栄養士国家試験合格率が、目標の80%以上に到達できなかったのは、今後の学生への教育の課題である。 ・授業外学習時間・自習学習時間を確保する指導を行う。 ・就職先の企業アンケートによる学生の学修成果の評価が未着手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理栄養士国家試験受験対策の取組みについて、教員間で改善策を議論する。 ・教員が授業外学習を課し、学生の自主学習時間の確保につながるようにする。 ・未着手の就職先への企業アンケート調査を実施することで、学生の学修成果の評価を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理栄養士指導センター基礎資料

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準3. 教育課程

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画		
【基準項目】 3-3 学修成果の 点検・評価	<p><視点> 3-3-②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック</p> <p>(留意点) □学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全科目において、授業最終回に授業アンケートを実施し集計するとともに、授業者は集計結果をもとに授業改善策を立案している。また、その結果はwebで公開されている。 ・専門教育・共通教育の中の全コア・アクティブ・ラーニング科目について、授業担当者がリフレクションシートによる自己点検評価を行っている。 ・「4×3の比治山力」(汎用的能力)については、本学独自の評価指標である「比治山カレポート」を用いた評価を行っている。 ・平成29年度実施アンケートや学生モニター意見集約の共有を通して、学修者から授業者へのフィードバックを実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「リフレクションシート」「比治山カレポート」などによるアンケート結果について、経年変化のフィードバックが未実施である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AP最終報告により、「リフレクションシート」「比治山カレポート」等アンケート結果による、経年変化のフィードバックを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度実施アンケート ・授業改善学生モニター議事録 ・授業アンケート(学長室) ・リフレクションシート(学生支援室) ・比治山カレポート(学生支援室) 	
	<p><視点> 3-3-②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック</p> <p>(留意点) □学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「学生による授業に関するアンケート調査」は前・後期ともに全科目について実施済みであり、授業内容・方法及び学修指導の改善に生かしている。 ・昨年度までの課題を踏まえ、新アンケートについては前期において一部の授業で試行し、後期は試行を拡大して実施し、検討を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学生による授業に関するアンケート調査」については、授業内容・方法及び学修指導のより具体的な点検・評価となる新アンケート案の試行を拡大しながら進めているが、決定には至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学生による授業に関するアンケート調査」の新アンケート案の一部試行結果を踏まえアンケート形式について確定し、実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「平成30年度前期学生による授業に関するアンケート調査」結果 ・「平成30年度後期学生による授業に関するアンケート調査」結果 	
	<p><視点> 3-3-②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック</p> <p>(留意点) □学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア運営委員会で卒業式で実施している就職調査を数値化し学科でのフィードバック資料とした。 ・満足した就職決定先が得られるように、企業研究の機会を多く提供した。 ・就職支援ガイダンス参加者を増やすため、キャリア運営委員との連携を強化した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科のキャリア支援の取組状況を全員で検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの情報を収集するために、内定届を提出する際に、満足度を調査し、具体的な改善策を検討する。 ・就職支援だけでなく、各学科の学びと連携した社会的・職業的自立のために必要な資質能力を向上を促す仕組みを検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア運営委員会資料、内定届 	

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準3. 教育課程

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画		
【基準項目】 3-3 学修成果の 点検・評価	<p><視点> 3-3-②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック</p> <p>(留意点) □学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。</p>	<p>【言語文化学科日本語文化コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員それぞれが、担当している専門教育・共通教育の中の全コア・アクティブ・ラーニング科目について、リフレクションシートによる自己点検評価を行っている。 ・「学生による授業に関するアンケート調査」の結果や「授業改善学生モニター」による意見交換会の報告などに基づき、教育内容・方法、学修指導の改善に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育内容・方法、学習指導の改善は各教員で行われており、コース内全体の取り組みとは必ずしもなっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員個人で行っている教育内容・方法、学習指導の改善をコース全体で行えるような仕組みを整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リフレクションシート(学生支援室) ・「平成30年前期学生による授業に関するアンケート調査」結果 ・「平成30年度共通教育に関するアンケート調査」結果 ・平成30年度 第1回授業改善学生モニター意見交換会(平成30年度第1回教員研修会資料) ・平成30年後期学生による授業に関するアンケート調査結果 ・平成30年度 第2回授業改善学生モニター意見交換会(平成30年度第2回教員研修会資料) 	
	<p><視点> 3-3-②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック</p> <p>(留意点) □学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。</p>	<p>【言語文化学科国際コミュニケーションコース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検については、GPAを参考にして、オリエンテーションなど機会を設けては、学生に直接指導しており、ハイウェイシステムの活用により、学生からの意見を踏まえた上でのフィードバックが機能している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学修成果の向上が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生アンケート調査の結果等を受け、平成31年度の見直しに向けて、さらなる学修成果の向上に向け方策を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「平成30年前期学生による授業に関するアンケート調査」結果 ・「平成30年後期学生による授業に関するアンケート調査」結果 ・平成30年度 授業改善学生モニター意見交換会(平成30年度教員研修会資料) 	
	<p><視点> 3-3-②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック</p> <p>(留意点) □学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。</p>	<p>【マスコミュニケーション学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「観光系分野への興味関心度調査(1～7セメスター)」の実施により、観光系科目と興味関心に対する経年評価を実施している。 ・「観光プランナー受検」「日本語検定受検」については、H30年度より授業内で戦略的に指導を行い、合格率向上に寄与している。結果として、 ①H30年度「観光プランナー」合格者6名(合格率100%)←H29年度は合格者5名(合格率83%) ②H30年度「日本語検定」合格者3級認定者(合格者)24名 合格率38.1% 準認定:10名 ・各授業科目においても、担当教員が随時学修成果を測るべく、コメントペーパーや添削等の実施により学生へフィードバックしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「観光プランナー」「日本語検定」の不合格者に対するフォロー体制(プログラム)が無い。 ・各科目については、学科全体の課題として、学修成果を情報共有できるしくみが無い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「観光プランナー」「日本語検定」の不合格者に対するフォロー体制(プログラム)を構築する。 ・各科目については、学科全体の課題として、学修成果を情報共有できるしくみを構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「観光系分野への興味関心度調査」結果 ・H30年度「日本語検定」受検結果 ・H30年度「観光プランナー」受検結果 	

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準3. 教育課程

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 3-3 学修成果の 点検・評価	<p><視点> 3-3-②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック</p> <p>(留意点) □学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。</p>	<p>【社会臨床心理学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各科目の担当教員は授業アンケートの結果や授業改善学生モニター意見交換会の報告書をふまえて授業内容の見直しを行っている。 ・心理学検定の結果については学科教員内で共有し、科会で改善点などについて検討している。 ・公認心理師カリキュラム検討委員会を学科内に設置し、おもに演習・実習科目について実施状況や改善点などを検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公認心理師カリキュラム検討委員会では大学院の心理実践実習について実施状況・改善点を検討しているが、学部の心理実習は来年度から始まるので、現在はまだ準備段階である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度から始まる学部の心理実習の状況を点検・評価し、改善点を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年前期「学生による授業に関するアンケート調査」結果 http://www.hijiyama-u.ac.jp/www/NEO-gakunainomikoukai/2017-1enquete_0907/ ・平成29年度 第1回授業改善学生モニター意見交換会(平成29年度第1回教員研修会資料) ・平成29年後期「学生による授業に関するアンケート調査」結果 http://www.hijiyama-u.ac.jp/www/NEO-gakunainomikoukai/2017-2enquete_0907/ ・平成29年度 第2回授業改善学生モニター意見交換会(平成29年度第2回教員研修会資料) ・第11回心理学検定団体受検結果一覧(2018年度) ・心理実践実習の手引き2019年度版
	<p><視点> 3-3-②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック</p> <p>(留意点) □学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。</p>	<p>【子ども発達教育学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科所属の全教員14名による月1回の定例会議の他にも、随時学科研修会を開催し、授業改善に向けた現状の把握、改題の改善に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマポリシーの実現に向けた授業改善の取り組み ・ディプロマポリシーの実現に向けた各事業の効果的な推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生への学習面・生活面に関するアンケートの実施 ・ディプロマポリシーの実現に向けて、各事業の目標・内容・方法・評価等を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2018年度大学生基礎力レポート結果報告書
	<p><視点> 3-3-②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック</p> <p>(留意点) □学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。</p>	<p>【管理栄養学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教員は、学生の授業評価、国家試験模擬試験結果を参考に、学力向上対策の自己点検を行い教育内容・方法の改善を組織的に実施している。 ・臨地実習先からの実習態度、実習内容等の評価を、学内での学習指導の改善へ活かしている。 ・学生は、チューターによる面談、さらに4年生は管理栄養士指導センターにて、センター長(学部長)、学科主任、センター員による面談を行い、学修成果の点検を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教員は、学生の授業評価、国家試験模擬試験結果を参考に、学力向上対策の自己点検を行い教育内容・方法の改善を行っているが、学生の成果として現れていないことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の学力向上については、具体的な成果につながる教育プログラムを計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理栄養士指導センター面談記録

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準4. 教員・職員

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 4-1 教学マネジメントの機能性	<p><視点> 4-1-②権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した教学マネジメントの構築</p> <p>(留意点) □大学の意思決定の権限と責任が明確になっているか。 □使命・目的の達成のため、教学マネジメントを構築しているか。 □大学の意思決定及び教学マネジメントが大学の使命・目的に沿って、適切に行われているか。</p>	<p>・教授会は毎月1回開催した。 ・全学教授会は、議題がないため開催しなかった。 ・運営戦略本部会議は毎月1回及び臨時に11回開催した。 ・学長及び副学長の所掌を一部変更した。(4月) ・国際担当及びキャリア担当の副学長を廃止するとともに、入試改革を担当する学長補佐1名配置した。(4月) ・大学・短大の教学マネジメントを推進することを目的として、運営戦略本部会議のワーキンググループとして教学マネジメント専門会議を設置した。(3月)</p>	なし	なし	<p>・比治山大学学則 ・比治山大学教授会規程 ・比治山大学全学教授会規程 ・比治山大学運営戦略本部規程 ・教学マネジメント専門会議要項</p>
	<p><視点> 4-1-③職員の配置と役割の明確化などによる教学マネジメントの機能性</p> <p>(留意点) □教学マネジメントの遂行に必要な職員を適切に配置し、役割を明確化にしているか。</p>	<p>・平成30年度は大学改革推進会議を2回開催した。 ①10月11日：中期計画のローリングについて、働き方改革関連法の概要について、平成30年度広島県人事委員会の給与勧告について ②11月22日：中期計画のローリングの見直し(案)について</p>	なし	なし	<p>・学校法人比治山学園寄附行為 ・学校法人比治山学園理事長等に対する事務委任規程 ・学校法人比治山学園事務等組織規程 ・学校法人比治山学園法人事務局処務規程 ・学校法人比治山学園経営戦略会議設置規程 ・比治山大学学則 ・比治山大学文書事務取扱規程 ・比治山大学決裁規程</p>

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準4. 教員・職員

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 4-2. 教員 の配置・職能 開発等	<p><視点> 4-2-①教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/> 大学及び大学院に必要な専任教員を確保し、適切に配置しているか。 <input type="checkbox"/> 教員の採用・昇任の方針に基づく規則を定め、かつ適切に運用しているか。</p>	<p>【現代文化学部・現代文化研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学及び大学院に必要な専任教員を確保し、適切に配置している。 ・教員の採用・昇任については、教員選考細則に基づき、これまで以上に明確な基準による選考を行う。 	なし	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・比治山大学教員選考規程(大学) ・比治山大学人事教授会規程(大学) ・ホームページ> 大学案内> 教育研究活動等の公開> 公表する教育情報> 教員組織図 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/3kyouin_daigaku.pdf ・比治山大学教員選考細則(大学) ・教員人事に関する方針
	<p><視点> 4-2-①教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/> 大学及び大学院に必要な専任教員を確保し、適切に配置しているか。 <input type="checkbox"/> 教員の採用・昇任の方針に基づく規則を定め、かつ適切に運用しているか。</p>	<p>【健康栄養学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開設時の教員の配置計画を基本に、適切に教員の配置を行っている。 ・教員の採用・昇任については、教員選考細則を制定し、これまで以上に明確な基準に基づいた採用・昇任の選考を行っている。 ・教員組織の中長期編成計画に基づき、教員の採用を行った。 	なし	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・比治山大学教員選考規程(大学) ・比治山大学人事教授会規程(大学) ・ホームページ> 大学案内> 教育研究活動等の公開> 公表する教育情報> 教員組織図 https://www.hijiyama-u.ac.jp/campus_guide/pdf/3kyouin_daigaku.pdf ・比治山大学教員選考細則(大学) ・教員人事に関する方針
	<p><視点> 4-2-②FD(Faculty Development)をはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/> FD、その他教員研修の組織的な実施とその見直しを行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30(2018)年度における教員研修会の取り組みについては、全学的な教育課題を踏まえての研修を外部講師・学内担当者により実施した。 ・9月は「研究活動における不正行為の防止について」「AP(大学教育再生加速プログラム)報告」「学園の財務状況等について」「高大接続を見据えた入試改革」「高等教育の政策を含めた今後の大学改革のあり方」を実施した。 ・3月は全学で「学生相談の状況について」「平成29年度実施アンケート課題への対応」「平成30年度授業改善学生モニター意見交換会報告」「企業の人材ニーズと大学の人材育成」「AP(大学教育再生加速プログラム)報告」を行うとともに、学科別に「学科における学生指導の報告生と具体的取り組み」を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度(2018)年度のFDの成果と課題をまとめるとともに、教育の教育力向上のため、FD実施の組織を設置することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価委員会の下に、ファカルティ・ディベロップメント推進部会を置き、FDの推進を行う。 ・新組織においてこれまでのFDの成果と課題をまとめ、次年度の研修会の時期・回数、内容について検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「平成30年度 第1回 比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研修会」実施要項 ・「平成30年度 第1回 比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研修会」配付資料 ・「平成30年度 第2回 比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研修会」実施要項 ・「平成30年度 第2回 比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研修会」配付資料

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準4. 教員・職員

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 4-3 職員の研修	<p><視点> 4-3-①SD(Staff Development)をはじめとする大学運営に関わる職員の資質・能力向上への取組み</p> <p>(留意点) □職員の資質・能力向上のための研修などの組織的な実施とその見直しを行っているか。</p>	<p>・比治山大学・比治山大学短期大学部スタッフデベロップメント基本方針に基づき、2日間の職員研修(教員との合同研修含む)を行った。</p> <p>・外部機関による研修プログラムの利用を企画し、平成31年3月までに44講座に延べ59名が参加した。</p> <p>・平成30年4月より、民間会社が実施する経営支援サービスに入会し、職員がeラーニングにより職場や家庭でいつでも自由に受講できる研修サービスを開始した。</p> <p>・本学の職務に関連する課題について、勤務時間外に行う研修費等の補助を行う、「自己啓発研修費の補助制度」に、平成30年度は、3件の申請があり、3件が採択された。</p>	<p>・外部研修への職員派遣については、現在、所属部署の要請や職員からの自主的の希望に基づき実施しており、本来研修が必要な者が必要な研修を受講する体制となっていない。</p> <p>・成果発表や報告を行う機会がないことが課題である。</p> <p>・自己啓発研修費の補助については、利用者が少ない。</p>	<p>・職員研修制度運営委員等の受講者指名による派遣が行えるよう検討する。</p> <p>・研修成果の定着や効果の最大化のため、研修前後の仕組みづくりの検討を進める。</p> <p>・自己啓発研修費の補助については、規程の改正及び目標面接等で管理者による利用促進を検討する。</p>	<p>・比治山大学・比治山大学短期大学部スタッフデベロップメント基本方針</p> <p>・比治山大学事務職員研修要項</p> <p>・比治山大学事務職員の自己啓発研修費補助に関する内規</p> <p>・平成30年度 比治山大学職員研修実施要領</p> <p>・平成30年度 第1回 比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研修会(教職員合同研修)</p> <p>・メイツ中国2018年度「定額制研修プログラム」参加者リスト</p> <p>・三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社経営支援総合サービス「SQUET」入会申込書、パンフレット</p>

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準4. 教員・職員

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 4-4 研究支援	<p><視点> 4-4-①研究環境の整備と適切な運営・管理</p> <p>(留意点) □快適な研究環境を整備し、有効に活用しているか。</p>	<p>・専任教員の研究室は、個人ごとに確保されている。</p>	なし	なし	・比治山手帳 教員一覧表
	<p><視点> 4-4-②研究倫理の確立と厳正な運用</p> <p>(留意点) □研究倫理に関する規則を整備し、厳正に運用しているか。</p>	<p>・平成31年3月までに7件の研究倫理審査の申請があった。12名の教員に審査部会(主査・副査)を委嘱し、研究倫理への意識を高めた。 ・平成30年9月のFD教員研修会で「研究倫理教育講習会」を行った。欠席者およびe-learning未受講者(9名)に別途、資料配付、説明を行った。 ・2月初旬e-learning未受講者に対し、教授会で受講を促した。</p>	<p>・e-learningでの研究倫理教育受講を促すことでは、全員に徹底が難しい。</p>	<p>・2019年9月のFD教員研修会においてプログラムの1つとして研究倫理教育を行う。 ・4月の新任者研修で研究倫理教育について資料を配付し、e-learningの受講を促す。</p>	<p>・平成30年度 第1回 比治山大学・比治山大学短期大学部 教員研修会</p>
	<p><視点> 4-4-③研究活動への資源の配分</p> <p>(留意点) □研究活動への資源配分に関する規則を整備し、設備などの物的支援とRA(Research Assistant)などの人的支援を行っているか。 □研究活動のための外部資金の導入の努力を行っているか。</p>	<p>・「研究奨励費」に4名より科研費申請結果を添えて申請があったが、本学の要件に達しなかったため、交付には至らなかった。 ・平成30年度「比治山大学研究助成」は大学9件の申請を採択とし、研究が進められている。また平成31年度は12月に審査を行い、それぞれの助成額を減額のうえ、大学6件の申請を全て採択とした。 ・平成30年度の科研費に14件の申請を行い、うち5件が採択された。 ・平成31年度の科研費に13件の申請を11月に行いうち3件が採択された。</p>	<p>・日本学術新振興会主催の科研費公募説明会の際、「科研費に応募させることを目的化することとは望ましくない」との説明があったことを受け、本学の「研究奨励費」について見直しの必要がある。</p>	<p>・「研究費規程 研究奨励費」の見直しを行う。 ・科研費応募への意欲喚起の方策検討する。</p>	<p>・平成30年度交付決定一覧 ・平成31年度内定一覧</p>

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準5. 経営・管理と財務

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 5-1 経営の規律 と誠実性	<p><視点> 5-1-②使命・目的の実現への継続的努力</p> <p>(留意点) □使命・目的を実現するために継続的な努力をしているか。</p>	<p>・学校法人比治山学園寄附行為に掲げている目的に沿って策定した比治山学園中期計画(平成28年度から平成33年度までの6年間)に従って平成30年度の事業計画を実施している。</p> <p>・平成30年度は中期計画の前期3年間の終了年のため、後期3年間に向けて、中期計画の進捗状況を確認し、見直し作業を行った。</p> <p>・事業計画と予算について、中間報告を受け、執行状況を把握している。</p> <p>・補助金等外部資金獲得への取り組み、経費削減への取り組みなどの対応や予算の執行状況についても報告を徴取し、実施状況を確認している。</p> <p>・理事会・評議員会、経営戦略会議、大学改革推進会議、運営戦略本部会議、教授会等の主要会議は議事録を作成し、審議経緯と結果を適切に管理している。</p>	なし	なし	<p>・学校法人比治山学園寄附行為</p> <p>・比治山学園中期計画(平成28年度から平成33年度まで)</p> <p>・平成30年度事業計画の進捗状況(平成30年11月末現在)※平成30年度事業計画の報告は令和元年5月</p> <p>・主要会議議事録</p>
【基準項目】 5-2 理事会の機能	<p><視点> 5-2-①使命・目的の達成に向けて意思決定ができる体制の整備とその機能性</p> <p>(留意点) □使命・目的の達成に向けて意思決定ができる体制を整備し、適切に機能しているか。 □理事の選任及び事業計画の確実な執行など理事会の運営は適切に行われているか。 □理事の出席状況及び欠席時の委任状は適切か。</p>	<p>・「経営戦略会議」や「大学改革推進会議」を設置し、理事会において学園及び各設置校の重要事項について機動的・戦略的に意思決定ができる体制を構築している。</p> <p>・理事会機能の活性化を図るため理事研修会を継続して行っている。平成30年度は外部講師により2回・内部講師により1回の計3回実施した。</p> <p>・理事・評議員に配付している「理事・評議員必携」について、学校関係事項の新しい動き等の説明や教育及び会計用語集に用語を付け加える等内容の充実を図り、資料編についても平成30年度の内容に更新し配付した。</p> <p>・理事会は法令及び寄附行為に基づき適切に運営されている。平成30年度は7回開催し、理事の出席状況は実出席率93.7%と適切である。</p> <p>・理事の欠席時に意思表示を行う書面に、議案に対する賛否の意思表示のための意見欄を設けている。更には、理事会開催前には専務理事が外部理事に議案の説明をしており、円滑な意思決定ができている。</p> <p>・理事は、寄附行為に基づき適切に選任されている。</p> <p>・事業計画について、平成30年度は中期計画の見直しの関係で進捗状況は年1回確認し、必要な修正を加えた。</p> <p>・理事会は、理事長等に事務委任したもの以外の学校法人の業務を決定するとともに、学長や校長から事業の進捗状況について報告を求め、引き続き状況をチェックし、意見を述べる等、理事の職務の執行も監督している。</p>	なし	なし	<p>・学校法人比治山学園経営戦略会議設置規程</p> <p>・学校法人比治山学園寄附行為</p> <p>・比治山学園中期計画(平成28年度から平成33年度まで)</p> <p>・平成30年度事業計画の進捗状況(平成30年11月末現在)※平成30年度事業計画の報告は令和元年5月</p> <p>・理事研修会開催状況</p> <p>・学校法人比治山学園理事会議事録</p> <p>・平成30年度理事会・評議員会の開催状況</p> <p>・理事会等出欠はがき</p> <p>・理事・評議員必携</p>

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準5. 経営・管理と財務

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 5-3 管理運営の 円滑化と相 互チェック	<p><視点> 5-3-①法人及び大学の各管理運営機関の意思決定の円滑化</p> <p>(留意点) □意思決定において、法人及び大学の各管理運営機関の意思疎通と連携を適切に行っているか。 □理事長がリーダーシップを発揮できる内部統制環境を整備しているか。</p>	<p>・「経営戦略会議」を概ね1～2か月に1回開催し、経営や教学に関する重要事項について協議している。 ・「経営戦略会議」の中に、「大学改革推進会議」を設置し、非常勤理事も加え、重要事項について各部門が連携して協議する体制となっている。 ・大学事務局長は法人事務局の次長を兼務し、専務理事兼法人事務局長は、大学の各部門の事務責任者で構成する室長会議に参画する等、実務レベルでの意思疎通と連携を図っている。 ・理事会で審議される事項は、事前に必ず「経営戦略会議」において検討・協議され、議案の調整・決定を行っている。「経営戦略会議」には各設置校の役職者が出席し相互チェックと連携が働いている。 ・学校法人比治山学園理事長等に対する事務委任規程を定め、理事長に権限を委任するとともに、学校法人比治山学園法人事務局処務規程により理事長決裁を明確にし、理事長に権限を集中的に付与している。 ・理事長がリーダーシップを発揮できるよう、学園内外の情報は日頃から報告・説明を行っている。</p>	なし	なし	<p>・学校法人比治山学園寄附行為 ・学校法人比治山学園経営戦略会議設置規程 ・平成30年度理事会・評議員会開催状況 ・比治山学園事務組織規程 ・比治山学園組織図 ・学校法人比治山学園理事長等に対する事務委任規程 ・学校法人比治山学園法人事務局処務規程 ・比治山大学文書事務取扱規程</p>
	<p><視点> 5-3-②法人及び大学の各管理運営機関の相互チェックの機能性</p> <p>(留意点) □法人及び大学の各管理運営機関が相互チェックする体制を整備し、適切に機能しているか。 □監事の選任は適切に行われているか。 □監事は、理事会及び評議員会などへの出席状況は適切か。 □監事は、理事会及び評議員会などへ出席し、学校法人の業務又は財産の状況について意見を述べているか。 □評議員の選任及び評議員会の運営は適切に行われているか。 □評議員の評議員会への出席状況は適切か。 □教職員の提案などをくみ上げる仕組みを整備しているか。</p>	<p>・法人と大学の業務処理は、起案決裁により業務執行の手続きを行っている。特に重要な案件は相互に合議され、相互に動向を把握し、チェックしている。最終の意思決定を行うまでに複数の協議体で議論、検討がなされて、寄附行為に基づき、適切に選任している。 ・監事は、理事会及び評議員会に毎回出席し、法人の業務や財産の状況を把握し、必要に応じて意見を述べている。平成30年度の理事会及び評議員会への実出席率は、理事会100%、評議員会100%と良好である。 ・評議員会は、25人の評議員(定数20～25)で構成し、理事定数7～9人の2倍を上回っている。 ・評議員は寄附行為に基づき適切に選任している。 ・評議員会は、理事会の諮問機関として、適切に運営している。平成30年度は、臨時評議員会を含め5回開催し、寄附行為に定められた事項はもとより、学園の業務に関する重要な事項についてあらかじめ意見を聞いている。また、その都度学園の状況について報告をしている。 ・11月からは、役員に行っていたメールでの情報提供を希望する評議員にも開始した。 ・平成30年度の評議員会への評議員の実出席率は70.4%である。 ・教職員の提案をくみ上げる仕組みとしては「事務職員提案実施要綱」を制定している。その他、意思形成を行うまでの各種会議に構成員として参画している。</p>	<p>・評議員の恒常的欠席者が課題である。</p>	<p>・出席を働きかける。</p>	<p>・学校法人比治山学園寄附行為 ・平成30年度理事会・評議員会開催状況 ・学校法人比治山学園理事会議事録 ・学校法人比治山学園評議員会議事録</p>

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準5. 経営・管理と財務

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画		
【基準項目】 5-4 財務基盤と 収支	<p><視点> 5-4-①中長期的な計画に基づく適切な財務運営の確立</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/>中長期的な計画に基づく財務運営を行っているか。</p>	<p>・平成29年10月18日の理事会で承認された「中期財政計画の見直し」を、平成29年度決算値及び平成30年度学納金収入予測を反映して見直しを行い、平成30年10月26日の理事会で承認された。この見直しされた中長期計画に基づき現在財務運営が行われている。</p> <p>・現在中期計画(28年～33年)のうち後半部分(31年～33年)の見直しが行われているが、これと並行して平成31年度の予算ヒアリングを各学科・事務局と行った。平成31年度予算ヒアリングでは、特に重点事業に関して、事務局においては中期計画見直しとの整合性、また学科においてはディプロマポリシー・カリキュラムポリシーとの整合性、教育の質保証の担保等にポイントを置いて実施した。</p> <p>・平成31年3月25日の評議員会・理事会に平成31年度予算案を提出した。</p>	<p>・学納金収入の減少と・働き方改革による、人件費の増加が課題である。</p>	<p>・財務シミュレーションの策定と周知方法を検討する。</p>	<p>・平成31年度予算 資金収支計算書・事業活動収支計算書</p>	
【基準項目】 5-5 会計	<p><視点> 5-5-①会計処理の適正な実施</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/>学校法人会計基準や経理に関する規則などに基づく会計処理を適正に実施しているか。 <input type="checkbox"/>予算と著しくかい離がある決算額の科目について、補正予算を編成しているか。</p>	<p>・学校法人会計基準・比治山学園経理規程に則して会計処理を行っている。また実務的に対応できない財務案件については適宜私学事業団・公認会計士にアドバイスを仰いでいる。</p> <p>・補正予算については第3回目の補正予算案が12月14日の理事会で承認された。</p> <p>・予算執行状況について10月26日の理事会で中間報告を行った。</p> <p>・現在施設担当で4号館改修工事関係支出の総括表を作成中である。完成した時点で財務・施設・会計士で勘定科目・1号基本金組入額・2号基本金取崩額について確認する。</p> <p>・平成31年3月25日の評議員会・理事会に平成30年度補正予算案(第4回目)を提出した。</p>	<p>・4号館改修工事については当初320百万円の2号基本金を設定していたが、実際の工事支出は220百万円程度と予測されるため差額の100百万円の取り扱いについて財務・施設・会計士で確認する。</p> <p>・平成30年度決算時に30年度補正予算(4回目)との主な差異分析を行う。</p>	<p>・平成31年4月の会計士往査時に確認を予定している。</p> <p>・平成30年度決算時に30年度補正予算(4回目)との主な差異分析の結果を次回予算策定時の精度向上に役立てる。</p>	<p>・平成30年度決算 資金収支計算書・事業活動収支計算書</p>	

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準6. 内部質保証

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 6-1 内部質保証 の組織体制	<p><視点> 6-1-①内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/>内部質保証のための恒常的な組織体制を整備しているか。 <input type="checkbox"/>内部質保証のための責任体制が明確になっているか。</p>	<p>・内部質保証のための責任体制として、学長を本部長とする「運営戦略本部」を設置している。</p> <p>・内部質保証の恒常的な組織体制として、「運営戦略本部」の下に評価委員会を置き、大学評価を指揮・管理し、日本高等教育評価機構の評価基準を参考にして、報告書案を作成するとともに、学生による授業評価、教職員研修等を行っている。</p> <p>・評価委員会には「大学部会(大学院含む)」「短大部会」「事務部会(法人事務局含む)」を置き、自己点検・評価を行い、年度ごとに自己点検評価書を作成し、執行部会、運営戦略本部、教授会に報告し、ホームページ等で公表している。</p>	<p>・内部質保証を恒常的に維持するためのIR委員会の支援を強化する必要がある。</p>	<p>・IR機能を見直し、内部質保証のために必要かつ十分に機能させる体制を構築する。</p>	<p>・比治山大学点検・評価規程 ・IR委員会規程</p>
	<p><視点> 6-1-①内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立</p> <p>(留意点) <input type="checkbox"/>内部質保証のための恒常的な組織体制を整備しているか。 <input type="checkbox"/>内部質保証のための責任体制が明確になっているか。</p>	<p>・運営戦略本部会議の構成員から図書館長、学長補佐、学科主任を外し、学部長、短大部長を各組織の教学運営の中心と位置付けて、効率的な意思決定を行った。</p> <p>・この結果、月1回の定例会のほか、計11回の臨時会を開催し、大学及び短大の将来構想の検討や学園中期計画の見直しなどの課題に機動的に対応できた。</p>	なし	なし	<p>・比治山大学学則 ・平成30年度比治山大学・比治山大学短期大学の学長補佐体制について ・比治山大学・比治山大学短期大学部学長補佐選考内規 ・比治山大学運営戦略本部規程</p>

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準6. 内部質保証

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況		今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画		
【基準項目】 6-2 内部質保証 のための自 己点検・評価	<p><視点> 6-2-①内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有</p> <p>(留意点) □内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価をどのように行っているか。 □エビデンスに基づく、自己点検・評価を定期的に行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より、日本高等評価機構の新しい基準による自己点検・評価を実施し、「現状」「進捗度」「課題」「改善方策」とともに「根拠資料」を明記することしたが、再度本年度実施に向け全教職員により正確な評価となるよう周知した。 ・PDCAサイクルの確実な実施を目指して、中間報告と最終報告を作成している。 ・年度計画を大学独自の基準に位置づけて報告書を作成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エビデンスに基づいた自己点検評価報告となっているか実施状況を確認する必要がある。 ・来年度より、日本高等評価機構の新しい基準を全て踏まえた自己点検評価を実施することになっているため、その準備を進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度より、日本高等評価機構の新しい基準を全て踏まえた自己点検評価を実施し、課題の抽出とエビデンスとの確認をおこなう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学 平成30年度自己点検評価書作成依頼に関する資料 ①平成30年度自己点検評価書 中間・最終報告報告 様式 ②平成30年度自己点検評価担当表 ③平成30年度基礎資料作成担当表 	
	<p><視点> 6-2-②IR(Institutional Research)などを活用した十分な調査・データの収集と分析</p> <p>(留意点) □現状把握のための十分な調査・データの収集と分析を行える体制を整備しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマ・ポリシーの効果測定のためのデータ収集、分析(学生の学修成果(学修時間、満足度、学修意欲等))に取り組んだ。主な分析は4×3の比治山力(汎用的能力)と外部指標との関連性(APとの協同)について調査、入学後の学修成果向上の要因について、1・2年次のGPAの伸び幅をもとに学生の属性(性別、出身校、学修時間、満足度等)調査を進めている。 ・インスティテューショナル・リサーチ 委員会で入試・教学・キャリア等の分析結果を月次報告した。 ・ファクトブック(年次報告書)更新を行い、追加項目(学生の資格取得状況等の学修成果の情報収集)に着手した。 ・職員育成は大学IR関係の講演出席、職員間で分析意見交換のための座談会を実施した。 ・授業アンケート、卒業時アンケート質問紙の見直しに着手した。 ・成果の公表として「比治山大学紀要」に「比治山大学・比治山大学短期大学部におけるインスティテューショナル・リサーチの現状と課題」を投稿した。 ・組織体制の見直しを行い、平成31年度は委員に専門教員を1名加え評価委員会副委員長2名を顧問とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三つのポリシーの効果測定のためのデータ収集、分析(学生の学修成果(学修時間、成長実感、満足度、学修行動、学修意欲等))の構築、各種学生アンケート調査結果の活用、分析結果の蓄積、分析結果に基づく政策提言が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三つのポリシーの効果測定のためのデータ収集、分析(学生の学修成果(学修時間、成長実感、満足度、学修行動、学修意欲等))の構築のため、各種アンケートデータやGPA、資格取得状況等のデータを活用して、学生の学修時間・成長実感・満足度・学修への意欲等を調査を行う。また、AP事業と連携し「4×3の比治山力レポート」(汎用的能力の学生自己評価アンケート)とベネッセ基礎力レポートⅡ(汎用的能力外部指標)との相関を調査を行う。 ・組織体制を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・比治山大学インスティテューショナル・リサーチ委員会規程 ・研究会報告書 ・IR委員会議事録 ・比治山大学紀要第 25号 	

平成30年度 自己点検評価書 (H30.4～R元.5)

基準6. 内部質保証

比治山大学

認証評価 評価項目	評価の視点 自己判定の留意点	進捗状況	今後の予定・課題等		根拠資料等
		現状	課題	行動計画	
【基準項目】 6-3. 内部 質保証の機 能性	<p><視点> 6-3-①内部質保証のための 学部、学科、研究科等と大学 全体のPDCAサイクルの仕組 みの確立とその機能性</p> <p>(留意点) □ 三つのポリシーを起点とし た内部質保証が行われ、その 結果が教育の改善・向上に反 映されているか。 □ 自己点検・評価、認証評価 及び設置計画履行状況等調 査などの結果の活用により、 中長期的な計画を踏まえた大 学運営の改善・向上を図るな ど、内部質保証の仕組みが機 能しているか。</p>	<p>・学科・コースごとに、ディプロマ・ポリシーの達成状況を指標化し把握するために、平成30年度についてその成果指標として関連する検定や外部試験等を決め到達レベルを設定した。</p> <p>・学科・コースに対して、質の高い教育活動を保証し、また、ディプロマ・ポリシーの効率的な達成を図るために、平成32年度のカリキュラム編成方針を策定し、見直すよう依頼した。</p> <p>・高等教育評価機構の新評価基準に基づく自己点検評価については、評価委員会が学部・学科、センター、委員会等の組織体による自己点検・評価を集約し、中間評価を行い、年度ごとに自己点検評価書まとめ、執行部会、運営戦略本部、教授会等に報告するとともに、ホームページ等で公表している。</p> <p>・中期計画の自己点検・評価については、9月と翌年1月に、部局単位で中間評価を行い、その結果を「主要事業計画進捗状況」として集約して執行部会、運営戦略本部、教授会、経営戦略会、理事会等に報告している。また、その報告内容は次年度の予算編成のための資料としている。</p> <p>・新入生アンケート、卒業生アンケート等の自由記述に注目し、学生の具体的な要望を運営戦略本部会議で仕分けし、関連部署に検討を依頼した。</p>	<p>・各部署でのPDCAサイクルの遂行が不十分である。</p> <p>・学科・コースごとに、ディプロマ・ポリシーの達成状況を指標化した平成30年度の成果について検討し、改善点を探る。</p>	<p>・内部質保証を意識した大学全体のPDCAサイクルの遂行を学内各部署に浸透させる。</p> <p>・質の高い教育活動を保証し、また、ディプロマ・ポリシーの効率的な達成を図るために、学部・コースの平成32年度のカリキュラム編成の見直しを行う。</p>	<p>・各学科におけるディプロマ・ポリシーの達成のための計画策定について(運営戦略本部会議H29.06.23)</p> <p>・平成30年度 主要事業計画進捗状況</p> <p>・平成32年度カリキュラム編成方針(運営戦略本部会議H31.02.14)</p>
	<p><視点> 6-3-①内部質保証のための 学部、学科、研究科等と大学 全体のPDCAサイクルの仕組 みの確立とその機能性</p> <p>(留意点) □ 三つのポリシーを起点とし た内部質保証が行われ、その 結果が教育の改善・向上に反 映されているか。 □ 自己点検・評価、認証評価 及び設置計画履行状況等調 査などの結果の活用により、 中長期的な計画を踏まえた大 学運営の改善・向上を図るな ど、内部質保証の仕組みが機 能しているか。</p>	<p>・「比治山学園中期計画」(平成28年度～平成33年度)の前半が終了することから、学園全体で見直しを行うこととし、大学においてもビジョン・戦略・重点事業を見直し、12月の理事会で見直し案を決定した。(平成31年2月の評議員会・理事会で見直し案を承認予定)</p> <p>・平成29年度の重点事業の実施結果は5月の理事会・評議員会において報告するとともに、11月末現在の進捗状況についても平成31年2月の理事会・評議員会で報告した。</p> <p>・平成30年度予算編成から、中期計画の前年度実施結果及び当該年度の進捗状況を検証し申請内容に反映させている。</p> <p>・監事が年2回行う業務監査(5月、10月)においても上記の実施結果や進捗状況について説明し、質疑の結果を事業実施に反映している。</p>	<p>・平成30年6月27日の第1回評価委員会において、自己点検評価書の作成スケジュールを変更し、平成30年度から中期計画の進捗状況報告及び事業報告に連動して評価書を作成することとした。</p>	なし	<p>・比治山学園中期計画(大学・短期大学部)</p> <p>・平成29年度事業報告書(大学・短期大学部)(理事会資料)</p> <p>・平成31年度予算編成方針(大学・短期大学部及び幼稚園)</p> <p>・平成29年度決算に係る業務監査について(通知)(平成30年4月12日)</p> <p>・平成30年度監査計画</p>

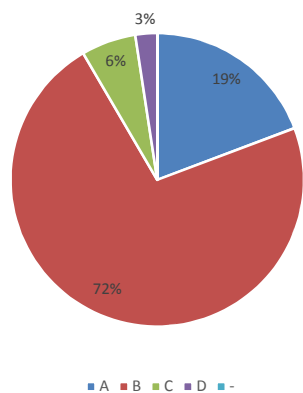
独自基準 比治山大学・比治山大学短期大学部 中期計画(平成28年度から平成33年度)に基づく平成30年度事業計画進捗状況について

中期計画(平成28年度から平成33年度)を策定するにあたり、本学の「建学の精神」をあらためて振り返り「ミッション」を再定義し、6年先までにありたい姿としての「ビジョン」を明確にした。ビジョンは大学、短大全体ビジョンと個別の5ビジョンを設定し、ビジョン実現のために22の主要事業と、これに紐づく具体的な重点施策である「重点計画」で構成している。各年度の事業計画は、基本的にこの「重点計画」を実施するものである。

平成30年度事業計画の進捗状況についてビジョンごとに以下のとおり点検した。

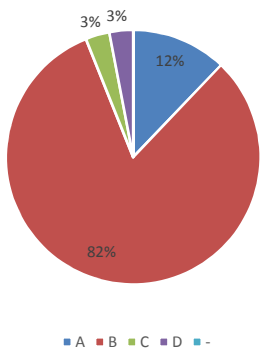
主 要 事 業	各事業の進捗度 (H30.11現在)				
	A	B	C	D	-
1 教育改革ビジョン					
(教学)					
1 大学教育再生加速プログラムの継続			4		
2 学生満足度向上	2		1		
3 高一大一社会の接続事業			2	1	
4 「4×3の比治山力」を支えるための基礎を構築	1				
5 外国語関係科目の授業者に対してアクティブ・ラーニングの授業形態等の研修	1				
6 大学を取り巻く様々な課題への取り組みと卓越した教育の推進			2		1
(キャリアガイダンス・支援)			8		
7 学生の主体的キャリアビジョン育成システム			2		
(学生支援)			2		
8 主体的な学びの意欲と強靱な心身の育成			4		
9 「Me+Library」を含む図書館の充実			4		
(入試広報)			4		
10 広島県内外のみならず世界から、優秀で志の高い入学生の確保					
教育改革ビジョン計	4	27	1	1	0
2 研究活性化ビジョン					
11 各教員個々の教育研究力向上と研究成果レベル向上、研究活動成果発信の体制整備及び研究推進支援の充実			2		
3 地域貢献ビジョン					
12 大学諸活動の「見える化」推進による地域のニーズへの対応と学科の特性に応じ学生参加型地域貢献・連携活動の推進			4		
4 国際化ビジョン					
13 国際化5戦略(①海外留学促進②留学生受入促進③教職員国際化支援④地域グローバル化対応⑤グローバル人材養成)と国際交流センターの整備	7	8	3		
14 海外研修プログラムの体系的整備	2	4			
国際化ビジョン計	9	12	3	0	0
5 基盤整備ビジョン					
(大学教育の質保証)					
15 事務組織体制の構築と人事考課制度の実効性確保			1	1	1
16 コンプライアンス、PDCAの実効性強化及びIR委員会機能の充実と確立			4		
17 収入定員確保のための教育組織の見直し			2		
(施設整備・環境整備計画)			2		
18 教育内容等に対応した施設整備、学生視点を重視したキャンパスや利便性の向上、学生生活を支えるための施設整備の充実			4		
19 情報通信技術を活かした教育環境の整備、情報セキュリティ確保、機器更新、情報センター組織の確立			1		
(情報公開とアカウントビリティ)	1		1		
20 大学情報公開の活性化と広報戦略の確立			1		
(財政基盤の安定と機動的意決定)	1		1		
21 学納金収入確保と外部資金の積極的導入による大学経営基盤の安定			1		
22 経営ガバナンスにおける大学、短期大学のマネジメント体制の確立と業務執行管理体制の強化と機動的意決定のための運営体制の構築	1				
基盤整備ビジョン計	3	15	1	1	0
総計	16	60	5	2	0

事業計画全体進捗状況

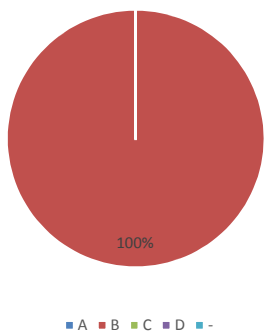


事業計画全体としては、A評価19%、B評価72%であり、90%以上の事業が完了または予定通りの進捗となっている。遅れている事業としてC評価6%、未着手D評価3%があり、全体で9%の事業が遅れている。国際化ビジョンにおける事業の遅れと、教育改革ビジョン及び基盤整備ビジョンの未着手の事業は見直しの必要がある。6年間の中期計画の後期に入る平成31年度に向けて、平成30年度に中間計画の見直しとして、事業の統合や実施計画の修正を行った。引き続き中期計画の目標達成のために平成31年度事業計画から取り組みを始める。

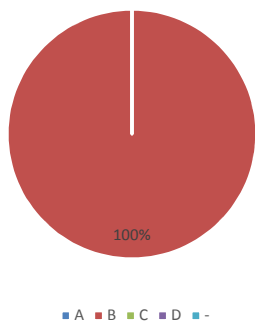
1 教育改革ビジョン



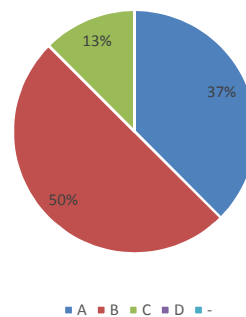
2 研究活性化ビジョン



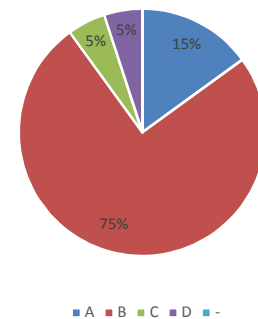
3 地域貢献ビジョン



4 国際化ビジョン



5 基盤整備ビジョン



平成 30 年度 自己点検評価書

発行日 令和元年 8 月

編集・発行 比治山大学

広島市東区牛田新町四丁目 1-1

電話：082-229-0121

FAX：082-229-5100